専修以外の基礎科目

授業科目	講義題目	単位	担当教員氏名	開講 ｾﾒｽﾀｰ	開講曜日・講時	平成30年度以前入学者 読替先授業科目
人文統計学	統計学の基礎	2	浜田　宏	3	前期 水曜日 3講時 前期 水曜日 3講時	
人文統計学	推測統計と多変量解析の基礎	2	小川　和孝	4	後期 水曜日 2講時	
人文情報処理	コンピュータを活用したデータ処理と情報発信	2	湊　信吾	3	前期 金曜日 2講時	
人文情報処理	コンピュータを活用したデータ処理と情報発信	2	湊　信吾	4	後期 金曜日 2講時	
英語演習	英文読解演習（1）	2	三枝　和彦	3	前期 火曜日 4講時	
英語演習	英文読解演習（2）	2	三枝　和彦	4	後期 火曜日 4講時	
高等英文解釈法	英文解釈の技法	2	佐藤　元樹	3	前期 金曜日 3講時	
高等英文解釈法	英文解釈の技法	2	佐藤　元樹	4	後期 金曜日 3講時	
英語論文作成法	Academic Writing I	2	STEPHEN　HALE	3	前期 水曜日 2講時	
英語論文作成法	Academic Writing II	2	STEPHEN　HALE	4	後期 水曜日 2講時	
ギリシャ語	古典ギリシャ語入門（1）	2	今井　誠二	3	前期 水曜日 5講時	
ギリシャ語	アリストテレス『自然学』第1巻講読	2	嶺岸　佑亮	3	前期 金曜日 4講時	
ギリシャ語	古典ギリシャ語入門（2）	2	今井　誠二	4	後期 水曜日 5講時	
ギリシャ語	アリストテレス『自然学』第1巻講読	2	嶺岸　佑亮	4	後期 金曜日 3講時	
ラテン語	ラテン語中級	2	宮崎　正美	3	前期 金曜日 2講時	
ラテン語	ラテン語文法入門・文法基礎	2	宮崎　正美	3	前期 金曜日 3講時	
ラテン語	ラテン語原典講読	2	荻原　理	4	後期 火曜日 3講時	
ラテン語	ラテン語文法および読解	2	宮崎　正美	4	後期 金曜日 3講時	
サンスクリット語	サンスクリット語基礎演習I	2	渡辺　亮	3	前期 木曜日 3講時	
サンスクリット語	サンスクリット語基礎演習II	2	渡辺　亮	4	後期 木曜日 3講時	
中国語	中国語中級作文	2	張　佩茹	3	前期 水曜日 2講時	
中国語	中国語中級作文	2	張　佩茹	4	後期 水曜日 2講時	

授業科目	講義題目	単位	担当教員氏名	開講 ｾﾒｽﾀｰ	開講曜日・講時	平成30年度以前入学者 読替先授業科目
朝鮮語	韓国語入門	2	権　来順	3	前期 水曜日 2講時	
朝鮮語	初級韓国語	2	権　来順	4	後期 水曜日 2講時	
イタリア語	イタリア語　上級	2	MARINUCCI　LORENZ	3	前期 水曜日 4講時	
イタリア語	イタリア語　初級	2	MARINUCCI　LORENZ	3	前期 木曜日 3講時	
イタリア語	イタリア語中級	2	MARINUCCI　LORENZ	3	前期 木曜日 4講時	
イタリア語	イタリア語　上級	2	MARINUCCI　LORENZ	4	後期 水曜日 4講時	
イタリア語	イタリア語　初級	2	MARINUCCI　LORENZ	4	後期 木曜日 3講時	
イタリア語	イタリア語中級	2	MARINUCCI　LORENZ	4	後期 木曜日 4講時	
専門中国語	中級中国語読解	2	張　佩茹	3	前期 火曜日 3講時	
専門中国語	中級中国語読解	2	張　佩茹	4	後期 火曜日 3講時	
専門ドイツ語	ドイツ語読解力の養成とドイツ語基礎の徹底	2	松崎　裕人	4	後期 水曜日 4講時	
専門フランス語	時事フランス語	2	黒岩　卓	3	前期 月曜日 4講時	
専門フランス語	French oral and written expression	2	MEVEL　YANN　ERIC	4	後期 水曜日 4講時	
漢文講読	漢文訓読入門（文法編）	2	高橋　亨	3	前期 金曜日 3講時	
漢文講読	漢文訓読入門（故事成語編）	2	高橋　亨	4	後期 金曜日 3講時	
人文社会科学特別講義Ⅰ	文化理論入門	1	KLAUTAU　ORION	集中	集中講義	

科目名：人文統計学／ Statistics

曜日・講時：前期 水曜日 ３講時.前期 水曜日 ３講時

セメスター：3 **単位数：**2

担当教員：浜田　宏

コード：LB33307, **科目ナンバリング：**LHM-PRI201J, **使用言語：**日本語

【平成 30 年度以前入学者読替先科目名：】

１．授業題目：統計学の基礎
２．Course Title（授業題目）：Elementary Statistics
３．授業の目的と概要：統計学の基礎を学ぶ。
特に、データ収集・測定の考え方の基本を理解し、代表値や変動の測度の算出、探索的データ解析、クロス集計表など、記述統計学の手法を身につける。
４．Course Objectives and Course Synopsis(授業の目的と概要)：This course serves as an introductory course on elementary statistics for social data analysis, which should be useful for students majoring in humanities and social sciences. It covers various topics in descriptive statistics to help students understand the basics of measurement and data analysis, ranging from central tendency, measures of variation to crosstabulation.
５．学習の到達目標：官庁統計や簡単な調査報告・論文を読めるようになるための基礎的な統計学について学ぶ。
６．Learning Goals(学修の到達目標)：Students learn about elementary statistical methods for interpreting academic and governmental reports that contain statistics and graphs.
７．授業の内容・方法と進度予定：
この科目の授業は Google Classroom（Meet を含む）を利用して実施します。
Classroom にアクセスし、クラスコードを入力してください。

1.データ分析とは（イントロダクション）
2.データと測定
3.度数分布と比率
4.平均・分散・相関係数
5.代表値と変動
6.グラフの見方と作り方
7.確率変数とデータ
8.確率分布間の関係
9.区間推定の理論
10.区間推定の実践
11.データ分析への準備(1)
12.データ分析への準備(2)
13.因果関係、相関関係、因果推論(1)
14.因果関係、相関関係、因果推論(2)
15.まとめ

８．成績評価方法：
出席 50%，期末試験 50%
９．教科書および参考書：
教科書：小寺平治，1996『新統計入門』裳華房
１０．授業時間外学習：教科書で予習・復習をする。
教科書の各章末にある練習問題を解く。
１１．実務・実践的授業/Practicalbusiness
※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note:"○"Indicatesthe practicalbusiness
《実務・実践的授業/Practicalbusiness》
１２．その他：なし
(1) 人文統計学（推測統計と多変量解析の基礎）とあわせて受講することが望ましい。
(2) 社会調査士資格認定標準科目 C に対応。
(3) 受講者は Google Classroom 上での連絡を毎週確認すること。

科目名：人文統計学／ Statistics

曜日・講時：後期 水曜日 ２講時

セメスター：4 **単位数：**2

担当教員：小川　和孝

コード：LB43206,　**科目ナンバリング：**LHM-PRI201J,　**使用言語：**日本語

【平成 30 年度以前入学者読替先科目名：】

１．授業題目：推測統計と多変量解析の基礎

２．Course Title（授業題目）：Introduction to Statistical Inference and Multivariate Analysis

３．授業の目的と概要：社会調査に必要な統計学について学ぶ。特に、統計的推測・仮説検定の考え方や、平均・比率の差の検定・推定、分散分析、相関分析、回帰分析などの手法について理解する。

４．Course Objectives and Course Synopsis(授業の目的と概要)：This course covers statistics that are needed to analyze social surveys. Topics include statistical inference, statistical test of means/proportions, analysis of variance, correlation, and regression.

５．学習の到達目標：社会調査に必要な統計学について理解し、自ら適用できるようになる。

６．Learning Goals(学修の到達目標)：Students learn statistical methodologies that are needed to analyze social surveys.

７．授業の内容・方法と進度予定：

1. 統計的推測と仮説検定（1）
2. 統計的推測と仮説検定（2）
3. 2 グループ間の平均の差の検定
4. 3 つ以上のグループ間の平均の差の検定
5. コンピュータ演習（1）
6. 離散変数間の関連（1）
7. 離散変数間の関連（2）
8. 連続変数間の関連（1）
9. 連続変数間の関連（2）
10. コンピュータ演習（2）
11. 単回帰分析（1）
12. 単回帰分析（2）
13. 重回帰分析とその応用（1）
14. 重回帰分析とその応用（2）
15. コンピュータ演習（3）

８．成績評価方法：

各回のレポート課題（60%）、およびコメントシート（40%）

９．教科書および参考書：

［教科書］林拓也，2024,『社会統計学入門〔三訂版〕』放送大学教育振興会.

１０．授業時間外学習：教科書と配布資料で予習・復習をし、課題に取り組む。

１１．実務・実践的授業/Practicalbusiness

※〇は、実務・実践的授業であることを示す。/Note:"〇"Indicatesthe practicalbusiness

《実務・実践的授業/Practicalbusiness》

１２．その他：なし

本授業は、社会調査士カリキュラムのＤ科目（「社会調査に必要な統計学に関する科目」）に該当する。

科目名：人文情報処理／ Information Processing for the Humanities

曜日・講時：前期 金曜日 ２講時

セメスター：3 **単位数：**2

担当教員：湊　信吾

コード：LB35205,　**科目ナンバリング：**LHM-HUI201J,　**使用言語：**日本語

【平成 30 年度以前入学者読替先科目名：】

１．授業題目：コンピュータを活用したデータ処理と情報発信
２．Course Title（授業題目）：Data processing and information providing with a computer
３．授業の目的と概要：この授業では Excel などのアプリケーションやプログラミング言語を使用して、データの分析や可視化、情報発信を行えるようになるための基本的な情報処理技術を実習を通して習得してもらうことを目的としている。

以下の予定で講義および実習を行う。内容を変更する場合には授業中に連絡する。

・Excel では表を使用したデータ処理について練習する。
・R を使用したデータ解析の方法、グラフの表現について練習する。
・PowerPoint を使用してプレゼンテーション用資料を作成する。
・インターネットで文書を公開するには Web ページを作成する。Web ページを作るためのプログラミング言語として HTML、 CSS および JavaScript の基本について学ぶ。
・SQL を使用したデータベースのプログラミングについて練習する。
・プログラミング言語 Python を用いてプログラミングの練習を行う。
４．Course Objectives and Course Synopsis(授業の目的と概要)：The objective of the course is to familiarise students with data processing, data visualization, web programming, and python programming.

・Spreadsheets and VBA programming with MS Excel
・Introduction to data processing with R
・Creating MS Powerpoint slides for presentation
・Introduction to relational database and SQL programming
・Web programming with HTML,CSS,JavaScript
・Introduction to Python programming
５．学習の到達目標：・Excel を使用した実習により手軽にデータ分析を行うことができるようになる。
・R を使用して基本的なデータ解析やグラフの作成ができるようになる。
・PowerPoint のスライド作成を通して発表用の資料を簡単に作ることができるようになる。
・Web ページを作ることで情報を外部に公開する方法について理解を深める。
・SQL のプログラミングを使用し汎用的にデータベースを操作できるようになる。
・プログラミング言語 Python を使って簡単なプログラムを作れるようになる。
６．Learning Goals(学修の到達目標)：After completion of the course students are expected to be able to:
・Use Data processing and data visualization with MS Excel and R
・Create effective slides for presentation
・Understand the basic concepts of relational database and SQL programming
・De
７．授業の内容・方法と進度予定：

1. オリエンテーション として授業の概要、評価の方法、テキストの閲覧方法、欠席時の対応について説明
2. Excel（表計算の基本）
3. Excel（グラフの作成）
4. Excel（テキストファイルの扱い方）
5. Excel（組み込み関数の応用）
6. Excel（VBA プログラミング）
7. PowerPoint を使用したスライドの作成
8. R を利用したデータ解析とグラフの作成

9～12.　HTML、CSS、JavaScript を使用した Web ページの作成（その１～その４）
13.　SQL を使用したデータベースの操作
14、15.　プログラミング言語 Python を使用したプログラミング（基本とライブラリの利用）

授業は前半、実習を交えながら解説を行う。後半、課題に取り組んでもらう。
８．成績評価方法：
毎回、レポートを提出してもらう。レポートの内容および提出日時により評価を決定する。
９．教科書および参考書：
毎週、classroom の授業のところでテキストを公開する。参考書についてはテキストおよび授業で紹介する。
１０．授業時間外学習：＜事前学習＞毎週、インターネット経由でテキストを公開するのでそれを見て予習をしてもらいたい。

また、テキスト中の語句でわからないところがあれば参考書などを利用して勉強しておいてほしい。
＜事後学習＞実習後、自分で用意したデータを使って再度試してみることで確実に授業で行ったことを身につけることができる。また、授業中に紹介した参考書で勉強することにより知識を深めることができる。

１１．実務・実践的授業/Practicalbusiness

※〇は、実務・実践的授業であることを示す。/Note:″〇″Indicatesthe practicalbusiness

《実務・実践的授業/Practicalbusiness》

１２．その他：なし

連絡用のメールアドレスはclassroomのストリームで公開する。テキストもclassroomの授業のタブで資料として公開し、ストリームで公開したことを連絡するようにしている。

科目名：人文情報処理／ Information Processing for the Humanities

曜日・講時：後期 金曜日 ２講時

セメスター：4 **単位数：**2

担当教員：湊　信吾

コード：LB45203,　**科目ナンバリング：**LHM-HUI201J,　**使用言語：**日本語

【平成 30 年度以前入学者読替先科目名：】

１．授業題目：コンピュータを活用したデータ処理と情報発信
２．Course Title（授業題目）：Data processing and information providing with a computer
３．授業の目的と概要：この授業では Excel などのアプリケーションやプログラミング言語を使用して、データの分析や可視化、情報発信を行えるようになるための基本的な情報処理技術を実習を通して習得してもらうことを目的としている。

以下の予定で講義および実習を行う。内容を変更する場合には授業中に連絡する。

・Excel では表を使用したデータ処理について練習する。
・R を使用したデータ解析の方法、グラフの表現について練習する。
・PowerPoint を使用してプレゼンテーション用資料を作成する。
・インターネットで文書を公開するには Web ページを作成する。Web ページを作るためのプログラミング言語として HTML、 CSS および JavaScript の基本について学ぶ。
・SQL を使用したデータベースのプログラミングについて練習する。
・プログラミング言語 Python を用いてプログラミングの練習を行う。
４．Course Objectives and Course Synopsis(授業の目的と概要)：The objective of the course is to familiarise students with data processing, data visualization, web programming, and python programming.

・Spreadsheets and VBA programming with MS Excel
・Introduction to data processing with R
・Creating MS Powerpoint slides for presentation
・Introduction to relational database and SQL programming
・Web programming with HTML,CSS,JavaScript
・Introduction to Python programming
５．学習の到達目標：・Excel を使用した実習により手軽にデータ分析を行うことができるようになる。
・R を使用して基本的なデータ解析やグラフの作成ができるようになる。
・PowerPoint のスライド作成を通して発表用の資料を簡単に作ることができるようになる。
・Web ページを作ることで情報を外部に公開する方法について理解を深める。
・SQL のプログラミングを使用し汎用的にデータベースを操作できるようになる。
・プログラミング言語 Python を使って簡単なプログラムを作れるようになる。
６．Learning Goals(学修の到達目標)：After completion of the course students are expected to be able to:
・Use Data processing and data visualization with MS Excel and R
・Create effective slides for presentation
・Understand the basic concepts of relational database and SQL programming
・De
７．授業の内容・方法と進度予定：

1. オリエンテーション として授業の概要、評価の方法、テキストの閲覧方法、欠席時の対応について説明
2. Excel（表計算の基本）
3. Excel（グラフの作成）
4. Excel（テキストファイルの扱い方）
5. Excel（組み込み関数の応用）
6. Excel（VBA プログラミング）
7. PowerPoint を使用したスライドの作成
8. R を利用したデータ解析とグラフの作成

9～12.　HTML、CSS、JavaScript を使用した Web ページの作成（その１～その４）
13.　SQL を使用したデータベースの操作
14、15.　プログラミング言語 Python を使用したプログラミング（基本とライブラリの利用）

授業は前半、実習を交えながら解説を行う。後半、課題に取り組んでもらう。
８．成績評価方法：
毎回、レポートを提出してもらう。レポートの内容および提出日時により評価を決定する。
９．教科書および参考書：
毎週、classroom の授業のところでテキストを公開する。参考書についてはテキストおよび授業で紹介する。
１０．授業時間外学習：＜事前学習＞毎週、インターネット経由でテキストを公開するのでそれを見て予習をしてもらいたい。

また、テキスト中の語句でわからないところがあれば参考書などを利用して勉強しておいてほしい。
＜事後学習＞実習後、自分で用意したデータを使って再度試してみることで確実に授業で行ったことを身につけることができる。また、授業中に紹介した参考書で勉強することにより知識を深めることができる。

１１．実務・実践的授業/Practicalbusiness

※〇は、実務・実践的授業であることを示す。/Note:″〇″Indicatesthe practicalbusiness

《実務・実践的授業/Practicalbusiness》

１２．その他：なし

連絡用のメールアドレスはclassroomのストリームで公開する。テキストもclassroomの授業のタブで資料として公開し、ストリームで公開したことを連絡するようにしている。

科目名：英語演習／ Seminar in Practical English

曜日・講時：前期 火曜日 ４講時

セメスター：3 **単位数：**2

担当教員：三枝　和彦

コード：LB32404,　**科目ナンバリング：**LHM-ENG201J,　**使用言語：**日本語

【平成 30 年度以前入学者読替先科目名：】

１．授業題目：英文読解演習（1）
２．Course Title（授業題目）：Reading Practice in English 1
３．授業の目的と概要：この授業は、英語がどのように発展してきたかについての本を読むことで、英語の語彙や表現の知識を増やし、英文を正確に読む力を鍛えること、並びに英語という言語について学ぶことを目的としています。
４．Course Objectives and Course Synopsis(授業の目的と概要)：The aim of this course is to increase students' knowledge of English vocabulary and expressions, to develop their ability to read English texts accurately, and to learn about the English language by reading a book about how the English language has developed.
５．学習の到達目標：（１）英語の語彙や表現の知識を増やす。
（２）英文を正確に読むことができるようになる。
（３）英語という言語に関する知識を身につける。
６．Learning Goals(学修の到達目標)：(1) Students will increase their knowledge of English vocabulary and expressions.
(2) Students will learn to read English passages accurately.
(3) Students will acquire knowledge of the English language.
７．授業の内容・方法と進度予定：
指定されたテクストを、授業ごとに 10 頁前後読み進めていきます。
事前に担当者を指定し、担当者は該当箇所の要約と、注目した事項や疑問点などを発表します。
それを基にして、授業者が講義や説明を行ったり、受講者が議論をしたりします。
また、授業で学んだことについて短いコメントを書いて提出します。

第 1 回　オリエンテーション
第 2 回　Chapter 1　The Common Tongue (1)
第 3 回　Chapter 1　The Common Tongue (2)
第 4 回　Chapter 2　The Great Escape (1)
第 5 回　Chapter 2　The Great Escape (2)
第 6 回　Chapter 3　Conquest
第 7 回　Chapter 4　Holding On
第 8 回　Chapter 5　The Speech of Kings (1)
第 9 回　Chapter 5　The Speech of Kings (1)
第 10 回 Chapter 6　Chaucer
第 11 回 Chapter 7　God's English
第 12 回 Chapter 8　English and the Language of the State
第 13 回 Chapter 9　William Tyndale's Bible
第 14 回 Chapter 10 A Renaissance of Words
第 15 回 Chapter 11 Preparing the Ground
８．成績評価方法：
授業への参加（20%）、発表担当（50%）、コメントペーパーの提出（30%）
９．教科書および参考書：
Melvyn Bragg, The Adventure of English: The Biography of a Language
１０．授業時間外学習：必ず予習をしてください。特に、発表担当者は入念な準備が必要です。
また、復習をして知識の定着を図りましょう。
１１．実務・実践的授業/Practicalbusiness
※〇は、実務・実践的授業であることを示す。/Note:"〇"Indicatesthe practicalbusiness
《実務・実践的授業/Practicalbusiness》
１２．その他：なし

科目名：英語演習／ Seminar in Practical English

曜日・講時：後期 火曜日 ４講時

セメスター：4 **単位数：**2

担当教員：三枝　和彦

コード：LB42405,　**科目ナンバリング：**LHM-ENG201J,　**使用言語：**日本語

【平成 30 年度以前入学者読替先科目名：】

１．授業題目：英文読解演習 (2)
２．Course Title (授業題目)：Reading Practice in English 2
３．授業の目的と概要：この授業は、前期に引き続き、英語がどのように発展してきたかについての本を読むことで、英語の語彙や表現の知識を増やし、英文を正確に読む力を鍛えること、並びに英語という言語について学ぶことを目的としています。
４．Course Objectives and Course Synopsis(授業の目的と概要)：The aim of this course is to increase students' knowledge of English vocabulary and expressions, to develop their ability to read English texts accurately, and to learn about the English language by reading a book about how the English language has developed, as in the previous semester.
５．学習の到達目標：（１）英語の語彙や表現の知識を増やす。
（２）英文を正確に読むことができるようになる。
（３）英語という言語に関する知識を身につける。
６．Learning Goals(学修の到達目標)：(1) Students will increase their knowledge of English vocabulary and expressions.
(2) Students will learn to read English passages accurately.
(3) Students will acquire knowledge of the English language.
７．授業の内容・方法と進度予定：
指定されたテクストを、授業ごとに 10 頁前後読み進めていきます。
事前に担当者を指定し、担当者は該当箇所の要約と、注目した事項や疑問点などを発表します。
それを基にして、授業者が講義や説明を行ったり、受講者が議論をしたりします。
また、授業で学んだことについて短いコメントを書いて提出します。

第 1 回　オリエンテーション
第 2 回　Chapter 12 Shakespeare's English (1)
第 3 回　Chapter 12 Shakespeare's English (2)
第 4 回　Chapter 13 "My America" (1)
第 5 回　Chapter 13 "My America" (2)
第 6 回　Chapter 14　Wild West Words
第 7 回　Chapter 14　Wild West Words
第 8 回　Chapter 15 Sold Down the River
第 9 回　Chapter 16 Mastering the Language (1)
第 10 回 Chapter 16 Mastering the Language (2)
第 11 回 Chapter 17 The Proper Way to Talk (1)
第 12 回 Chapter 17　The Proper Way to Talk (2)
第 13 回 Chapter 18 Stream, Streats and Slang
第 14 回 Chapter 19 Indian Takeover (1)
第 15 回 Chapter 19 Indian Takeover (2)
８．成績評価方法：
授業への参加 (20%)、発表担当 (50%)、コメントペーパーの提出 (30%)
９．教科書および参考書：
Melvyn Bragg, The Adventure of English: The Biography of a Language
１０．授業時間外学習：必ず予習をしてください。特に、発表担当者は入念な準備が必要です。
また、復習をして知識の定着を図りましょう。
１１．実務・実践的授業/Practicalbusiness
※〇は、実務・実践的授業であることを示す。/Note:"〇"Indicatesthe practicalbusiness
《実務・実践的授業/Practicalbusiness》
１２．その他：なし

科目名：高等英文解釈法／ Advanced English for Intensive Reading

曜日・講時：前期 金曜日 ３講時

セメスター：3 **単位数：**2

担当教員：佐藤　元樹

コード：LB35304, **科目ナンバリング：**LHM-ENG202J, **使用言語：**日本語

【平成 30 年度以前入学者読替先科目名：】

１．授業題目：英文解釈の技法

２．Course Title（授業題目）：Advanced Reading Skills in English

３．授業の目的と概要：様々な形式の多様なジャンルの英文テキストを読み、英語の読解力および批判的思考力を養成する。

４．Course Objectives and Course Synopsis(授業の目的と概要)：This course is designed to develop reading and critical thinking skills by reading and interacting with a wide variety of reading genres in different formats.

５．学習の到達目標：英文を正確に読み、パラグラフの要点を特定すること、事実と意見を区別すること、情報を分類することができるようになる。

６．Learning Goals(学修の到達目標)：Students can identify the main idea of a paragraph, recognize facts and opinions, and categorize information.

７．授業の内容・方法と進度予定：

1. オリエンテーション
2. Unit 1 Sociology - Reading 1: We all need a role model
3. Unit 1 Sociology - Reading 2: Everyday heroes
4. Unit 1 Sociology - Reading skill / critical thinking strategy / writing skill
5. Unit 2 Behavioral Science - Reading 1: Your Guide to Generation Z
6. Unit 2 Behavioral Science - Reading 2: This is why you’re addicted to your phone
7. Unit 2 Behavioral Science - Reading skill / critical thinking strategy / writing skill
8. Unit Test 学習事項の確認
9. Unit 3 Developmental Psychology - Reading 1: The difference between fitting in and belonging, and why it matters
10. Unit 3 Developmental Psychology - Reading 2: Life lessons I learned from my dad in 23 years
11. Unit 3 Developmental Psychology - Reading skill / critical thinking strategy / writing skill
12. Unit 4 Science and Technology - Reading 1: Five innovative technologies that bring energy to the developing world
13. Unit 4 Science and Technology - Reading 2: This device pulls water out of desert air
14. Unit 4 Science and Technology - Reading skill / critical thinking strategy/ writing skill
15. まとめの解説と学期末試験

８．成績評価方法：

学期末試験および各 Unit の課題にもとづいて、総合的に評価する。

９．教科書および参考書：

Daise, Debra and Charl Norloff, Q: Skills for Success Level 4 Reading and Writing 3rd edition, Oxford UP, 2019.

１０．授業時間外学習：授業で扱ったテキストを読み返し、テキストの設問に答える。

１１．実務・実践的授業/Practicalbusiness

※〇は、実務・実践的授業であることを示す。/Note:″〇″Indicatesthe practicalbusiness

《実務・実践的授業/Practicalbusiness》

１２．その他：なし

辞書を持参すること。

科目名：高等英文解釈法／ Advanced English for Intensive Reading

曜日・講時：後期 金曜日 ３講時

セメスター：4 **単位数：**2

担当教員：佐藤　元樹

コード：LB45304, **科目ナンバリング：**LHM-ENG202J, **使用言語：**日本語

【平成 30 年度以前入学者読替先科目名：】

１．授業題目：英文解釈の技法
２．Course Title（授業題目）：Advanced Reading Skills in English
３．授業の目的と概要：様々な形式の多様なジャンルの英文テキストを読み、英語の読解力および批判的思考力を養成する。
４．Course Objectives and Course Synopsis(授業の目的と概要)：This course is designed to develop reading and critical thinking skills by reading and interacting with a wide variety of reading genres in different formats.
５．学習の到達目標：英文を正確に読み、要点と細部を区別すること、対比的な考えを判別すること、著者の意図を理解すること、推測して結論を出すことができる。
６．Learning Goals(学修の到達目標)：Students can distinguish main ideas from details, identify contrasting ideas, understand the author’s intent, and make inferences.
７．授業の内容・方法と進度予定：

1. オリエンテーション
2. Unit 5 Nutritional Science - Reading 1: Eating well
3. Unit 5 Nutritional Science - Reading 2: A personalized nutrition company will use your DNA to tell you what to eat
4. Unit 5 Nutritional Science - Reading skill / critical thinking strategy / writing skill
5. Unit 6 Education- Reading 1: From student to employee
6. Unit 6 Education - Reading 2: Making my first post-college career decision
7. Unit 6 Education - Reading skill / critical thinking strategy / writing skill
8. Unit Test 学習事項の確認
9. Unit 7 Geology- Reading 1: Ocean discoveries
10. Unit 7 Geology - Reading 2: Alaska’s Pebble Mine
11. Unit 7 Geology - Reading skill / critical thinking strategy / writing skill
12. Unit 8 Engineering - Reading 1: The Tacoma narrows bridge collapse and the lessons learned
13. Unit 8 Engineering - Reading 2: How to design a student project that benefits the developing world
14. Unit 8 Engineering - Reading skill / critical thinking strategy / writing skill
15. まとめの解説と学期末試験

８．成績評価方法：
学期末試験および各 Unit の課題にもとづいて、総合的に評価する。
９．教科書および参考書：
Daise, Debra and Charl Norloff, Q: Skills for Success Level 4 Reading and Writing 3rd edition, Oxford UP, 2019.
１０．授業時間外学習：授業で扱ったテキストを読み返し、テキストの設問に答える。
１１．実務・実践的授業/Practicalbusiness
※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note:"○"Indicatesthe practicalbusiness
《実務・実践的授業/Practicalbusiness》
１２．その他：なし
辞書を持参すること。

科目名：英語論文作成法／ Creative Writing

曜日・講時：前期 水曜日 ２講時

セメスター：3 **単位数：**2

担当教員：ＳＴＥＰＨＥＮ　ＨＡＬＥ

コード：LB98802,　**科目ナンバリング：**LHM-ENG203E,　**使用言語：**英語

【平成 30 年度以前入学者読替先科目名：】

１．授業題目：Academic Writing I

２．Course Title（授業題目）：Academic Writing I

３．授業の目的と概要：This course is an introduction to the process of academic writing in English. The foremost objective is to enable students to gain practical skills and confidence for communicating effectively in formal English writing. To this end, students will learn and practice the basics for: (1) common and uncommon uses of a variety of punctuation marks; (2) the correct page layout for writing paragraphs and essays; (3) sentence, paragraph, and essay structure for different essay types; and (4) strategies for pre-writing, writing, proofreading and revision.

Note that all writing in this course will essentially be collaborative as a result of input and revision advice from peers and instructor alike. In other words, only revised second drafts of writing will be accepted for evaluation (scoring). Also note that Academic Writing I is a prerequisite course for acquiring the skills needed for succeeding in Academic Writing II, which focuses on all steps and related issues in the process of research paper writing in English.

４．Course Objectives and Course Synopsis(授業の目的と概要)：This course is an introduction to the process of academic writing in English. The foremost objective is to enable students to gain practical skills and confidence for communicating effectively in formal English writing. To this end, students will learn and practice the basics for: (1) common and uncommon uses of a variety of punctuation marks; (2) the correct page layout for writing paragraphs and essays; (3) sentence, paragraph, and essay structure for different essay types; and (4) strategies for pre-writing, writing, proofreading and revision.

Note that all writing in this course will essentially be collaborative as a result of input and revision advice from peers and instructor alike. In other words, only revised second drafts of writing will be accepted for evaluation (scoring). Also note that Academic Writing I is a prerequisite course for acquiring the skills needed for succeeding in Academic Writing II, which focuses on all steps and related issues in the process of research paper writing in English.

５．学習の到達目標：As a result of completing this course, students will be able to:

1) apply the fundamental rules of page layout in word processing for formal academic essays in English.
2) identify different types of essays and make correct writing decisions relat

６．Learning Goals(学修の到達目標)：s a result of completing this course, students will be able to:

1) apply the fundamental rules of page layout in word processing for formal academic essays in English.
2) identify different types of essays and make correct writing decisions relate

７．授業の内容・方法と進度予定：

1) Semester I Course Introduction; the Writing Process; Plagiarism
2) Page Layout Rules and Word Processing; Writing Email
3) Capitalization Rules; Parts of a Paragraph; Introduction to Assignment 1
4) Basic Sentence Structure; Revision (Proofreading and Editing)
5) Parts of an Essay; Introduction Paragraph; Attention Getters
6) Thesis Statements; Introduction to Assignment 2; Essay Model Analysis
7) Parallelism; Conclusion Paragraph; Colons and Semicolons
8) Writing Workshop for Assignment 2
9) Introduction to Assignment 3; Essay Model Analysis
10) Hyphens and Dashes; Cohesion
11) Writing Workshop for Assignment 3
12) Writing about a Process; Introduction to Assignment 4; Essay Model Analysis
13) Process Writing (continued); Audience and Tone
14) Writing Workshop for Assignment 3; Test Preview/Course Review and Evaluation
15) Semester I Test

８．成績評価方法：

The final grade will be determined by: (1) class work, homework, and class attendance; (2) writing assignments, and (3) a semester test.

９．教科書および参考書：

Reference materials and practical activities will be provided on a weekly basis in printed and/or digital form. All assignments and class prints, furthermore, should be saved and carefully stored in a notebook.

１０．授業時間外学習：There is a lot of homework in this course, especially in completing writing assignments

according to strict-yet reasonable-deadlines. Because most of the learning is based on actually doing and redoing a series of tasks, success in this course depends on consistent effort outside of class hours and timely completion of all assignments.

１１．実務・実践的授業/Practicalbusiness

※〇は、実務・実践的授業であることを示す。/Note:"〇"Indicatesthe practicalbusiness

《実務・実践的授業/Practicalbusiness》

１２．その他：なし

Class attendance is expected at all times. Absences will adversely affect your grade in this course.

In principle, no auditors will be accepted.

科目名：英語論文作成法／ Creative Writing

曜日・講時：後期 水曜日 ２講時

セメスター：4 **単位数：**2

担当教員：ＳＴＥＰＨＥＮ　ＨＡＬＥ

コード：LB98803,　**科目ナンバリング：**LHM-ENG203E,　**使用言語：**英語

【平成 30 年度以前入学者読替先科目名：】

１．授業題目：Academic Writing II

２．Course Title (授業題目)：Academic Writing II

３．授業の目的と概要：Academic Writing II is a continuation of Academic Writing I (AWI) from the spring semester; therefore successful completion of AWI is prerequisite for taking this course. Using the fundamental skills of academic writing acquired during the spring semester, students will focus on producing a fully documented research paper in English (8-12 substantial paragraphs in length). Students will thus systematically study the research process and learn how to present research into a cohesive, logically organized paper, with a special focus on proper format and citation of source material. This process will also include writing an abstract (summary) and an oral presentation of research findings.

４．Course Objectives and Course Synopsis(授業の目的と概要)：Academic Writing II is a continuation of Academic Writing I (AWI) from the spring semester; therefore successful completion of AWI is prerequisite for taking this course. Using the fundamental skills of academic writing acquired during the spring semester, students will focus on producing a fully documented research paper in English (8-12 substantial paragraphs in length). Students will thus systematically study the research process and learn how to present research into a cohesive, logically organized paper, with a special focus on proper format and citation of source material. This process will also include writing an abstract (summary) and an oral presentation of research findings.

５．学習の到達目標：As a result of taking this course, students will be able to:

1) apply the fundamental rules of page layout in word processing for research papers in English.
2) identify and evaluate potential resources of information.
3) select a topic, then systemati

６．Learning Goals(学修の到達目標)：As a result of taking this course, students will be able to:

1) apply the fundamental rules of page layout in word processing for research papers in English.
2) identify and evaluate potential resources of information.
3) select a topic, then systemati

７．授業の内容・方法と進度予定：

Class Schedule and Activities for 15 lessons

1) Semester II Course Introduction; the Research Process
2) Choosing a Topic; Identifying Potential Resources; Working Bibliography
3) Gathering and Evaluating Source Materials
4) Paragraph Organization and Note-Taking
5) Note-Taking (continued); Quotations and Paraphrasing
6) Capitalization, Italics, and Quotation Marks
7) Model Analysis; Writing an Outline
8) Writing Workshop 1
9) Writing the First Draft; Citing Sources; Avoiding Plagiarism
10) Writing Workshop 2
11) Works Cited List; Layout for Final Draft; Evaluation Rubric
12) Writing Workshop 3
13) Abstract Writing; Presentation of Research
14) Research Presentations; Test Preview/Course Review and Evaluation
15) Semester II Test

８．成績評価方法：

The final grade will be determined by: (1) class work, homework, and class attendance; (2) research paper and abstract; (3) research presentation; and (4) semester test.

９．教科書および参考書：

Reference materials and practical activities will be provided on a weekly basis in printed and/or digital form. All assignments and class prints, furthermore, should be saved and carefully stored in a notebook.

Note that the Style Guide of the Modern

１０．授業時間外学習：There is a lot of homework in this course, especially in completing the various research steps according to strict-yet reasonable-deadlines. Because most of the learning is based on actually doing a series of tasks, success in this course depends on consistent effort outside of class hours and timely completion of all of the tasks.

１１．実務・実践的授業/Practicalbusiness

※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note:"○"Indicatesthe practicalbusiness

《実務・実践的授業/Practicalbusiness》

１２．その他：なし

Class attendance is expected at all times. Absences will adversely affect your grade in this course.

In principle, no auditors will be accepted.

科目名：ギリシャ語／ Greek

曜日・講時：前期 水曜日 ５講時

セメスター：3 **単位数：**2

担当教員：今井　誠二

コード：LB33502,　**科目ナンバリング：**LHM-OFL201J,　**使用言語：**日本語

【平成 30 年度以前入学者読替先科目名：】

１．授業題目：古典ギリシャ語入門（１）

２．Course Title（授業題目）：Introduction to Classical Greek (1)

３．授業の目的と概要：古典ギリシャ語のアルファベットの学習から始めて、名詞、形容詞、動詞等の必要最小限の文法事項を習得する。基本的には教科書に沿って進めていくが、適宜順序を変える。重要な文法事項については、資料などを補いつつ解説する。

４．Course Objectives and Course Synopsis(授業の目的と概要)：Beginning with the study of the classical Greek alphabet, students will learn the minimum necessary grammatical items such as nouns, adjectives, and verbs. The course will basically follow the textbook, but the order will be changed as necessary. Important grammatical points will be explained with supplementary materials.

５．学習の到達目標：古典ギリシア語の文法の基礎を習得し、簡単な文章を訳せるようになる。

６．Learning Goals(学修の到達目標)：To become able to translate plain sentences.

７．授業の内容・方法と進度予定：

″文字と発音、アクセント
第１・第２変化名詞及び形容詞、定冠詞
ω 動詞：直説法能動相現在及び未来
ω 動詞：直説法能動相未完了過去及びアオリスト、不定詞を用いた間接話法
ω 動詞；直説法能動相第２アオリスト、結果文、時の表現
前接辞と後接辞、疑問代名詞と不定代名詞、動詞 ε ι μ ι と φ η μ ι、所有の与格
第３変化名詞：子音幹、限定の対格及び与格
第３変化名詞、母音融合を行う第１・第２変化形容詞
第３変化名詞：母音幹、関係代名詞
指示代名詞、強意代名詞 α υ τ ο ς
形容詞および副詞の比較、η δ ι ω ν の変化
母音融合動詞
流音・鼻音幹動詞の未来、人称代名詞
－υ ς －ε ι α －υ 型および －η ς －ε ς 型の形容詞
π α ς, μ ε γ α ς, π ο λ υ ς の変化
μ ι 動詞：ι σ τ η μ ι と δ ι δ ω μ ι の直接法能動相現在・未完了過去・アオリスト
μ ι 動詞：τ ι θ η μ ι、ι η μ ι、ε ι μ ι、δ ε κ ν υ μ ι″

８．成績評価方法：

出席 60%、毎回の授業の課題達成度 40%

９．教科書および参考書：

水谷智洋著『古典ギリシャ語初歩』岩波書店 1990 年発行、3500 円+税

１０．授業時間外学習：語形変化を何度も書いて復習し、仕組みを理解すること。定期的に簡単な書き取りテストを行って復習がなされているかを点検する。

１１．実務・実践的授業/Practicalbusiness

※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note:″○″Indicatesthe practicalbusiness

《実務・実践的授業/Practicalbusiness》

１２．その他：なし

科目名：ギリシャ語／ Greek

曜日・講時：前期 金曜日 ４講時

セメスター：3 **単位数：**2

担当教員：嶺岸　佑亮

コード：LB35405,　**科目ナンバリング：**LHM-OFL201J,　**使用言語：**日本語

【平成 30 年度以前入学者読替先科目名：】

１．授業題目：アリストテレス『自然学』第１巻講読

２．Course Title（授業題目）：Reading the 1st Book of Aristotle’s Physics

３．授業の目的と概要：　アリストテレスの『自然学』は、アリストテレス自身の哲学的方法や概念が集約されている非常に重要なテクストです。またこのテクストは、ニュートンの古典物理学以前の自然探求の基本テクストであり、学問とは何であるかについての古代ギリシア的な理解を与えてくれます。実際に古代ギリシア語の原典で精読することを通じて、哲学や学問とはそもそも何であるか、ということについての理解を深めることが可能です。

『自然学』の第１巻は、タレスやヘラクレイトスやパルメニデスなど、現在では断片のかたちでのみ伝えられているさまざまな先行する哲学者の思想が吟味されています。イオニア学派やエレア学派における自然理解は、哲学や学問の領域だけではなく、文学的にも非常に大きな影響を与え続けています。必要に応じて、彼らの思想の特徴についても検討します。

４．Course Objectives and Course Synopsis(授業の目的と概要)：We are going to read the 1st book of Aristotle’s Physics, which ist one of the most classic text of philosophy. Until the Medieval Age it has been esteemd as the basic text for the natural phanomena. It gives also us the understanding, what the scientific method is.

５．学習の到達目標：・アリストテレスの哲学的テクストを自力で訳すことが出来るようになる
・ギリシア語特有の語形変化になれ、正しく分析することが出来るようになる
・辞書・文法書を活用することが出来るようになる

６．Learning Goals(学修の到達目標)：・We aim to gain the ability to translate philosophical text in classical Greek into Japanese by oneself
・We aim to get accustomed to the conjugation and declension of the classical Greek and so to be able to analyse correctly

７．授業の内容・方法と進度予定：
・第１回：イントロダクション（演習の内容と方法、について）
・第２回：第１巻読解 １～３０行
・第３回：巻１読解 ３１～６０行
・第４回：第１巻読解 ６１～９０行
・第５回：第１巻読解 ９１～１２０行
・第６回：第１巻読解 １２１～１５０行
・第７回：第１巻読解 １５０～１８０行
・第８回：第１巻読解 １８１～２１０行
・第９回：第１巻読解 ２１０～２５０行
・第１０回：第１巻読解 ２５１～２９０行
・第１１回：第１巻読解 ２９１～３３０行
・第１２回：第１巻読解 ３３１～３７０行
・第１３回：第１巻読解 ３７１～４１０行
・第１４回：第１巻読解 ４１１～４５０行
・第１５回：全体のまとめ

８．成績評価方法：
出席および平常点（毎回の訳読とその準備、文法的分析、討論への参加）

９．教科書および参考書：
教科書および参考書：テキストは講師がコピーを配布します。
辞書は、Lidelle and Scott’s Greel-English Lexicon, Oxford の abridged edition を使用します。
［Text will be prepared by lector. We use abridged edition of Lidelle and Scott’s Greel-English Lexicon, Oxford］

１０．授業時間外学習：授業時間外学修：各回の予習として 5～15 行程度の予習が必要です。
［Students are required to prepare 5 to 15 verses for each class ］

１１．実務・実践的授業/Practicalbusiness
※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note:″○″Indicatesthe practicalbusiness
《実務・実践的授業/Practicalbusiness》

１２．その他：なし

科目名：ギリシャ語／ Greek

曜日・講時：後期 水曜日 ５講時

セメスター：4 **単位数：**2

担当教員：今井　誠二

コード：LB43502,　**科目ナンバリング：**LHM-OFL201J,　**使用言語：**日本語

【平成 30 年度以前入学者読替先科目名：】

１．授業題目：古典ギリシャ語入門（２）

２．Course Title（授業題目）：Introduction to Classical Greek (2)

３．授業の目的と概要：前期に引き続き、古典ギリシャ語の文法の初歩の学びを深める。基本的には教科書に沿って進めていくが、適宜順序を変える。重要な文法事項については資料を追加して解説する。

４．Course Objectives and Course Synopsis(授業の目的と概要)：Continuing from the previous semester, students will deepen their study of the rudiments of classical Greek grammar. The course will basically follow the textbook, but the order will be changed as necessary. Important grammatical points will be explained with additional materials.

５．学習の到達目標：古典ギリシア語の文法の基礎を習得し、簡単な文章を訳せるようになる。

６．Learning Goals(学修の到達目標)：To become able to translate plain sentences.

７．授業の内容・方法と進度予定：

ω 動詞の能動相現在・未来・第２アオリストの分詞、分詞の用法
ω 動詞の能動相アオリストの分詞、μι 動詞の能動相現在および第２アオリストの分詞
接続法能動相現在およびアオリスト、主文における接続法の用法、接続法を用いた条件文
希求法能動相現在・未来・アオリスト、主文における希求法の用法、目的文
希求法を用いた条件文、οτι，ως によって導入される間接話法、話法転換時の動詞の法の変化
直接法中・受動相現在、直接法中・受動相未来、能動相欠如動詞、危惧・恐怖を表す文
直接法中・受動相未完了過去、直接法中・受動相第２アオリスト、再帰代名詞、所有代名詞、配慮・努力を表す文
直接法中・受動相アオリスト、事実に反する仮定の条件文、過去の仮定を表す文
接続法中・受動相現在、接続法中・受動相アオリスト、εως，πριν の用法
希求法中・受動相現在、希求法中・受動相アオリスト・未来
受動相アオリストおよび未来、行為者を表す υπο +属格、手段・方法の与格
能動相完了・過去完了・未来完了
中・受動相完了、過去完了、未来完了、行為者の与格
命令法：ω 動詞
命令法：μι 動詞
μι 動詞型の変化をする第２アオリスト、動形容詞、動詞の腫瘍部分
数詞

８．成績評価方法：

出席 60%、毎回の授業の課題達成度 40%

９．教科書および参考書：

水谷智洋著『古典ギリシャ語初歩』岩波書店 1990 年発行、3500 円+税

１０．授業時間外学習：語形変化を何度も書いて復習し、仕組みを理解すること。定期的に簡単な書き取りテストを行って復習がなされているかを点検する。

１１．実務・実践的授業/Practicalbusiness

※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note:"○"Indicatesthe practicalbusiness

《実務・実践的授業/Practicalbusiness》

１２．その他：なし

科目名：ギリシャ語／ Greek

曜日・講時：後期 金曜日 ３講時

セメスター：4 **単位数：**2

担当教員：嶺岸　佑亮

コード：LB45305,　**科目ナンバリング：**LHM-OFL201J,　**使用言語：**日本語

【平成 30 年度以前入学者読替先科目名：】

１．授業題目：アリストテレス『自然学』第１巻講読

２．Course Title（授業題目）：Reading the 1st Book of Aristotle’s Physics

３．授業の目的と概要：　アリストテレスの『自然学』は、アリストテレス自身の哲学的方法や概念が集約されている非常に重要なテクストです。またこのテクストは、ニュートンの古典物理学以前の自然探求の基本テクストであり、学問とは何であるかについての古代ギリシア的な理解を与えてくれます。実際に古代ギリシア語の原典で精読することを通じて、哲学や学問とはそもそも何であるか、ということについての理解を深めることが可能です。

『自然学』の第１巻は、タレスやヘラクレイトスやパルメニデスなど、現在では断片のかたちでのみ伝えられているさまざまな先行する哲学者の思想が吟味されています。イオニア学派やエレア学派における自然理解は、哲学や学問の領域だけではなく、文学的にも非常に大きな影響を与え続けています。必要に応じて、彼らの思想の特徴についても検討します。

後期の購読では、必要に応じて第２巻や第３巻の関連個所も取り上げる予定です。そのことにより、古代ギリシアにおける自然概念や運動概念について基本的な理解を獲得することを目指します。

４．Course Objectives and Course Synopsis(授業の目的と概要)：We are going to read the 1st book of Aristotle’s Physics, which ist one of the most classic text of philosophy. Until the Medieval Age it has been esteemd as the basic text for the natural phanomena. It gives also us the understanding, what the scientific method is.

５．学習の到達目標：・アリストテレスの哲学的テクストを自力で訳すことが出来るようになる
・ギリシア語特有の語形変化になれ、正しく分析することが出来るようになる
・辞書・文法書を活用することが出来るようになる

６．Learning Goals(学修の到達目標)：・We aim to gain the ability to translate philosophical text in classical Greek into Japanese by oneself
・We aim to get accustomed to the conjugation and declension of the classical Greek and so to be able to analyse correctly

７．授業の内容・方法と進度予定：
・第１回：イントロダクション（演習の内容と方法、について）
・第２回：第１巻読解 １～３０行
・第３回：巻１読解 ３１～６０行
・第４回：第１巻読解 ６１～９０行
・第５回：第１巻読解 ９１～１２０行
・第６回：第１巻読解 １２１～１５０行
・第７回：第１巻読解 １５０～１８０行
・第８回：第１巻読解 １８１～２１０行
・第９回：第１巻読解 ２１０～２５０行
・第１０回：第１巻読解 ２５１～２９０行
・第１１回：第１巻読解 ２９１～３３０行
・第１２回：第１巻読解 ３３１～３７０行
・第１３回：第１巻読解 ３７１～４１０行
・第１４回：第１巻読解 ４１１～４５０行
・第１５回：全体のまとめ

８．成績評価方法：
出席および平常点（毎回の訳読とその準備、文法的分析、討論への参加）

９．教科書および参考書：
教科書および参考書：テキストは講師がコピーを配布します。
辞書は、Lidelle and Scott’s Greel-English Lexicon, Oxford の abridged edition を使用します。
[Text will be prepared by lector. We use abridged edition of Lidelle and Scott’s Greel-English Lexicon, Oxford]

１０．授業時間外学習：授業時間外学修：各回の予習として 5～15 行程度の予習が必要です。
[Students are required to prepare 5 to 15 verses for each class]

１１．実務・実践的授業/Practicalbusiness
※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note:"○"Indicatesthe practicalbusiness
《実務・実践的授業/Practicalbusiness》

１２．その他：なし

科目名：ラテン語／ Latin

曜日・講時：前期 金曜日 ２講時

セメスター：3 **単位数：**2

担当教員：宮崎　正美

コード：LB35206, **科目ナンバリング：**LHM-OFL202J, **使用言語：**日本語

【平成 30 年度以前入学者読替先科目名：】

１．授業題目：ラテン語中級

２．Course Title（授業題目）：Intermediate Course of Latin Grammar

３．授業の目的と概要：この授業では、受講生が、ラテン語の基礎文法を基にして、中世以降のテクストの読解力を習得することを目的とする。授業では、様々なテクストの中から重要な点や注意すべき点を指摘しながら解説する。

４．Course Objectives and Course Synopsis(授業の目的と概要)：The purpose of this class is for students to acquire reading comprehension skills for texts from the Middle Ages onwards, based on fundamental Latin grammar. In class, giving attention and explaining important points in various texts.

５．学習の到達目標：古典ラテン語文法を基にしながら、後期ラテン語、中世ラテン語など、様々な時代のテクストを読解できるようになることである。

６．Learning Goals(学修の到達目標)：At the aim of this course, participants are able to read texts from various eras(Late Latin,Medieval Latin, and so on) based on classical Latin grammar.

７．授業の内容・方法と進度予定：

※この科目ではClassroomを使用して講義資料と講義情報を発信します。Classroomにアクセスし、クラスコードを入力してください（クラスコードは後日お知らせします)。

本授業は講義を中心に進める。内容および進度予定は以下のとおりであるが、若干内容を変更する場合がある。

1. イントロダクション
2. ラテン語詩歌の韻律法
3. 古典ラテン語以降のラテン語文法の変化（～現代）
4. 古典ラテン語以降のラテン語文法の具体的変化と例文（１）
5. 古典ラテン語以降のラテン語文法の具体的変化と例文（２）
6. 古典ラテン語以降のラテン語文法の具体的変化と例文（３）
7. 古典ラテン語以降のラテン語文法の具体的変化と例文（４）
8. テクスト読解（１）
9. テクスト読解（２）
10. テクスト読解（３）
11. テクスト読解（４）
12. テクスト読解（５）
13. テクスト読解（６）
14. テクスト読解（７）
15. まとめ

８．成績評価方法：

出席日数が総授業数の 2/3 以上の学生が評価の対象になります。

出席状況（３分の２の出席を単位取得の最低条件とし、残り３分の１を全体の 40%に換算），レポート（60%），に基づいて評価する。(ただし比重は 平均点、偏り、状況等により調整することがある。)

９．教科書および参考書：

教科書［Textbook]：なし。教員が作成した PDF 資料を、Google Classroom の中で提供する。[None. Students available to use PDFs created by teacher in Google Classroom.]

参考書［Recommended Lexicon Latino-Japonicum]： 水谷智洋 『羅和辞典(改定版)』研究社、2009 年.

１０．授業時間外学習：指定したテキスト（プリント）の該当箇所を読んで、予習しておくこと。

テキストの練習問題を利用して、授業の内容を理解し、例文の文法解析をしておく

Students are required to prepare for the assigned part of the handouts. They also required to review each class using handouts and to analyze example sentences grammatical word by word.

１１．実務・実践的授業/Practicalbusiness

※〇は、実務・実践的授業であることを示す。/Note:"〇"Indicatesthe practicalbusiness

《実務・実践的授業/Practicalbusiness》

１２．その他：なし

Students must bring their own computers to class?

[No.] If we must use online (e.g.Zoom), need to bring our own device with our own account.

連絡先［Contact]：paul-m◎tohoku.ac.jp

(◎を@に置き換えてください［Replace ◎ to @. ］)

この講義は日本語で提供されます。

辞書は参考書としているが

科目名：ラテン語／ Latin

曜日・講時：前期 金曜日 ３講時

セメスター：3 **単位数：**2

担当教員：宮崎　正美

コード：LB35305,　**科目ナンバリング：**LHM-OFL202J,　**使用言語：**日本語

【平成 30 年度以前入学者読替先科目名：】

１．授業題目：ラテン語文法入門・文法基礎
２．Course Title（授業題目）：Introductory Course of Latin Grammar
３．授業の目的と概要：この授業では、受講生が、ラテン語の文法の全体像をつかんだ上で、文法の基礎的事項を習得することを目的とする。授業は、学ぶ上での重要な点や注意すべき点を指摘しながら解説する。
４．Course Objectives and Course Synopsis(授業の目的と概要)：This course provides participants to easily recognize an entire structure of Latin grammar and fundamental knowledge. It also provides explanations of important points on learning and points where you should be careful about.
５．学習の到達目標：ラテン語文法理解の基礎となる事項（動詞・名詞・形容詞・代名詞その他）を修得し、どのような特徴をもった言語であるかを学ぶこと。
さらに格言など簡単なラテン語文章を読解できるようになることである。
６．Learning Goals(学修の到達目標)：At the end of the course, participants are expected to acquire some part of Latin speech (verbs, nouns, adjectives, pronouns) as bases, and to learn the characteristics and the basic concepts of Latin.
It also enhances basic reading skills and understand
７．授業の内容・方法と進度予定：
※この科目ではClassroomを使用して講義資料と講義情報を発信します。Classroomにアクセスし、クラスコードを入力してください（クラスコードは後日お知らせします)。

本授業は講義を中心に進める。内容および進度予定は以下のとおりであるが、若干内容を変更する場合がある。

1. イントロダクション
2. アルファベット、発音、音節・アクセント規則
3. 動詞の基礎（１）　人称語尾、４活用型とその判別法、sum動詞
4. 動詞の基礎（２）　現在幹、命令法
5. 名詞の基礎（１）　性・数・格、５変化型とその判別法、第１変化
6. 名詞の基礎（２）　第２変化、第３変化①i幹
7. 名詞の基礎（３）　第３変化②子音幹、前置詞（対格、奪格）
8. 名詞の基礎（４）　属格の用法、与格の用法、第４変化、第５変化名詞の基礎
9. 形容詞（１）　性・数・格の一致、第１・第２変化型
10. 形容詞（２）　第３変化型
11. 形容詞（３）　比較級、最上級、副詞、数詞
12. 代名詞（１）　代名詞の概観、人称代名詞・再帰代名詞、所有代名詞・形容詞
13. 代名詞（２）　指示代名詞・形容詞①
14. 代名詞（３）　指示代名詞・形容詞②、限定代名詞・形容詞、強意代名詞・形容詞
15. 代名詞（４）　関係代名詞・形容詞、疑問代名詞・形容詞、その他の代名詞・形容詞

８．成績評価方法：
出席日数が総授業数の2/3以上の学生が評価の対象になります。
出席状況（３分の２の出席を単位取得の最低条件とし、残り３分の１を全体の40%に換算），レポート・試験（60%），に基づいて評価する。(ただし比重は 平均点、偏り、状況等により調整することがある。)
９．教科書および参考書：
教科書［Textbook]：なし。教員が作成したPDF資料を、Google Classroom の中で提供する。[None. Students available to use PDFs created by teacher in Google Classroom.]
参考書［Recommended Lexicon Latino-Japonicum]： 水谷智洋 『羅和辞典(改定版)』研究社、2009年.
１０．授業時間外学習：指定したテキスト（プリント）の該当箇所を読んで、予習しておくこと。
テキストの練習問題を利用して、授業の内容を理解し、例文の文法解析をしておく
／ Students are required to prepare for the assigned part of the handouts. They also required to review each class using handouts and to analyze example sentences grammatical word by word.
１１．実務・実践的授業/Practicalbusiness
※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note:"○"Indicatesthe practicalbusiness
《実務・実践的授業/Practicalbusiness》
１２．その他：なし
Students must bring their own computers to class?
[No.] If we must use online (e.g.Zoom), need to bring our own device with our own account.

連絡先［Contact］: paul-m◎tohoku.ac.jp
（◎を@に置き換えてください［Replace ◎ to @. ］）
この講義は日本語で提供されます。
辞書は参考書としているが

科目名：ラテン語／ Latin

曜日・講時：後期 火曜日　３講時

セメスター：4 **単位数：**2

担当教員：荻原　理

コード：LB42308,　**科目ナンバリング：**LHM-OFL202J,　**使用言語：**日本語

【平成 30 年度以前入学者読替先科目名：】

１．授業題目：ラテン語原典講読

２．Course Title（授業題目）：Advanced Latin

３．授業の目的と概要：　語学上比較的やさしいラテン語の文章を、文法上の解説を受けながら、ゆっくり丁寧に読んでいきます。テクストの音読、語形変化の練習にも時間を取ります。そうして文法事項を確認・学習し、ラテン語に馴れていきます。

遠慮なく、積極的に質問してください。

読むテクストは、参加者の希望・関心を訊きながら、教員が選定します。ジャンルの異なる複数のテクストを読むことになると思います。

参考までに、過去数年に取り上げたテクストとして、初学者向けに現代人が書いた短い物語、カエサル『ガリア戦記』、キケロ『運命について』、デカルト『省察』、アウグスティヌス『告白』、ルクレティウス『事物の本性について』があります（ゆっくり進みますので、どれも少ししか読めませんでした）。

４．Course Objectives and Course Synopsis(授業の目的と概要)：We shall read a few linguistically easier Latin texts slowly, with the instructor providing detailed grammatical explanations. We shall also practice the inflections or declensions of some words that we come across. Thereby we shall get used to the language, especially grammar. The instructor will decide on what texts to read by considering the attendants' interests.

５．学習の到達目標：授業中読んだ文章については、ラテン語を読みながら文章の意味を捉えられるようになり、また、各語についても構文についても、文法的に説明できるようになる。

６．Learning Goals(学修の到達目標)：To become able to comprehend the meaning, and give grammatical explanation, of the texts that we shall have read

７．授業の内容・方法と進度予定：

初回はイントロ。以降、テクストを丁寧に読んでいく。

最初の数回分のテクスト（テクスト１）は教員が選ぶが、参加者の関心に応じてさらにテクストを選定していく（テクスト２以降）。

第１回：イントロ
第２回：テクスト１　数行　たとえば 1-3 行であろうか
第３回：テクスト１　次の数行　たとえば 4 行-7 行途中でもあろうか
第４回：テクスト１　その次の数行　たとえば 7 行途中-11 行でもあろうか
第５回：テクスト１　さらにその次の数行　たとえば 11 行-18 行でもあろうか
第６回：テクスト１　18-21 行　ならびに　テクスト 2 1-3 行　でもあろうか
第７回：テクスト１　22 行-27 行　ならびに　テクスト 2 4-6 行　でもあろうか
第８回：テクスト２　7-15 行　でもあろうか
第９回：テクスト２　16-23 行　でもあろうか
第１０回：テクスト２　24-27 行　ならびに　テクスト３　1-4 行　でもあろうか
第１１回：テクスト２　28-32 行　ならびに　テクスト３　5-11 行　でもあろうか
第１２回：テクスト２　33-36 行　ならびに　テクスト３　12-17 行　でもあろうか
第１３回：テクスト３　18-21 行　ならびに　テクスト４　1-4 行　でもあろうか
第１４回：テクスト３　22-27 行　ならびに　テクスト４　5-10 行　でもあろうか
第１５回：テクスト４　11-22 行　でもあろうか

８．成績評価方法：

授業時のパフォーマンスによる

９．教科書および参考書：

松平千秋・国原吉之助『新ラテン文法』（南江堂、1968 年初版、改訂 1979 年）を各自入手して下さい。読むテクストはオンラインで提供します。

１０．授業時間外学習：復習（とくに、意味を捉えながらの音読）。次回読む予定の箇所の下調べ（できる範囲で）。

１１．実務・実践的授業/Practicalbusiness

※〇は、実務・実践的授業であることを示す。/Note:"〇"Indicatesthe practicalbusiness

《実務・実践的授業/Practicalbusiness》

１２．その他：なし

ラテン語初等文法を一通り学んでいることが参加の条件です（覚え残しが多少あっても構いません）。

科目名：ラテン語／ Latin

曜日・講時：後期 金曜日 ３講時

セメスター：4 **単位数：**2

担当教員：宮崎　正美

コード：LB45306, **科目ナンバリング：**LHM-OFL202J, **使用言語：**日本語

【平成 30 年度以前入学者読替先科目名：】

１．授業題目：ラテン語文法および読解

２．Course Title（授業題目）：Latin grammar and reading

３．授業の目的と概要：この授業では、受講生が、ラテン語の基礎的文法の仕上げをすることを目的とする。動詞の基本（直説法、現在、能動態）に基づく発展的文法を習得し、ラテン語の文法体系を総合的に理解できるようにする。さらに総合的な読解力のために、さまざまな時代の文献を対象とし、古文書学やキリスト教に関する基本的知識をもとにして、読解する。それにより、学術的研究にラテン語の果たす役割の一端を実感できるであろう。

４．Course Objectives and Course Synopsis(授業の目的と概要)：The aim of this course is to helps students develop entire basic Latin grammar. Students will learn various grammatical rules based on the fundamental understanding(indicative, present, active voice) of verbs, and the Latin grammar system. Furthermore, for general comprehension in reading : students will develop basic skills through documents of various era, using basic knowledge of paleography and the essence of Christianity. Through this exercise, students may be able to accept the role of Latin to academic research.

５．学習の到達目標：（１）ラテン語文法の総合的な理解を習得すること。
（２）ラテン語原典にふれて読解力がつくようになること。

６.Learning Goals(学修の到達目標)：(1) The purpose of this course is to help students to learn a general understanding of Latin grammar and learn sentence structure.
(2) Students will develop reading skills and better understand using Latin original texts.

７．授業の内容・方法と進度予定：

第１回　イントロダクション動詞の態・時制・法の概略、現在幹を基にした不定法現在、命令法
第２回　動詞の「完了」「未完了」、動詞の時制の概観、未完了過去（直説法能動態）、未来（直説法能動態）、sum の未完了過去、未来
第３回　受動態人称語尾、形式受動態語尾（デポネンティア動詞）、命令法受動態
第４回　完了（直説法能動態）、完了幹、過去完了（直説法能動態）、未来完了（直説法能動態）
第５回　分詞（１）　分詞の種類と性格、性・数・格、現在分詞
第６回　分詞（２）　完了分詞、未来分詞、目的分詞
第７回　非人称動詞、不定法（現在、完了、未来）、動名詞
第８回　動形容詞、奪格別句
第９回　接続法（１）　接続法現在（能動態）、単文での用法、接続法の基本用法
第１０回　接続法（２）　接続法現在（受動態）、接続法未完了過去（能動態・受動態）、接続法完了（能動態・受動態）、接続法過去完了（能動態・受動態）、
第１１回　接続法（３）　時制の対応関係、間接話法（疑問文、命令文）、目的文
第１２回　接続法（４）　程度文・結果文、条件文・譲歩文
第１３回　原典講読①
第１４回　原典講読②
第１５回　原典講読③

８．成績評価方法：

出席日数が総授業数の 2/3 以上の学生が評価の対象になります。
出席状況（３分の２の出席を単位取得の最低条件とし、残り３分の１を全体の 40％に換算），レポート・試験（60％），に基づいて評価する。（ただし比重は 平均点、偏り、状況等により調整することがある。）

９．教科書および参考書：

教科書［Textbook］：なし。教員が作成した PDF 資料を、Google Classroom の中で提供する。[None. Students available to use PDFs created by teacher in Google Classroom.]
参考書［Recommended Lexicon Latino-Japonicum］： 水谷智洋 『羅和辞典(改定版)』研究社、2009 年.

１０．授業時間外学習：指定したテキスト（プリント）の該当箇所を読んで、予習しておくこと。
テキストの練習問題を利用して、授業の内容を理解し、例文の文法解析をしておく
Students are required to prepare for the assigned part of the handouts. They also required to review each class using handouts and to analyze example sentences grammatical word by word.

１１．実務・実践的授業/Practicalbusiness

※〇は、実務・実践的授業であることを示す。/Note:"〇"Indicatesthe practicalbusiness

《実務・実践的授業/Practicalbusiness》

１２．その他：なし
Students must bring their own computers to class?
[No.] If we must use online (e.g.Zoom), need to bring our own device with our own account.

連絡先［Contact］: paul-m◎tohoku.ac.jp
（◎を@に置き換えてください［Replace ◎ to @. ］）
この講義は日本語で提供されます。この講義は日本語で提供されま

科目名：サンスクリット語／ Sanskrit

曜日・講時：前期 木曜日 ３講時

セメスター：3 **単位数：**2

担当教員：渡辺　亮

コード：LB34304, **科目ナンバリング：**LHM-OFL203J, **使用言語：**日本語

【平成 30 年度以前入学者読替先科目名：】

１．授業題目：サンスクリット語基礎演習Ⅰ

２．Course Title（授業題目）：Introduction to classical Sanskrit literature Ⅰ

３．授業の目的と概要：ランマンの『サンスクリット読本』をテキストとして平易なサンスクリット文の読解演習を行い，サンスクリット語文法・語彙の理解を深める。テキストの語彙集・注記のほか，ホイットニーの文法書を適宜参照しながら読み進める。インド古典文学の理解のため，随時，古代インド文化の概説を行う。

４．Course Objectives and Course Synopsis(授業の目的と概要)：In this class, we aims to deepen our understanding of Sanskrit grammar and vocabulary through reading texts in Lanman's "A Sanskrit Reader." We will read as much as possible by referring to Whitney's "Sanskrit Grammar" as well as the textbook's glossary and explanatory notes. And then we outline ancient Indian culture for an understanding of classical Sanskrit literature.

５．学習の到達目標：平易なサンスクリット語の文章を訳せるようになる。

６．Learning Goals(学修の到達目標)：Students will be able to translate plain Sanskrit texts.

７．授業の内容・方法と進度予定：

1. イントロダクション
2. 『ナラ王物語』第１章（ナラ王とダマヤンティーの生い立ち）1－4
3. 『ナラ王物語』第１章 5－8
4. 『ナラ王物語』第１章 9－12
5. 『ナラ王物語』第１章 13－16
6. 『ナラ王物語』第１章 17－21
7. 『ナラ王物語』第１章 22－26
8. 『ナラ王物語』第１章 27－32
9. 『ナラ王物語』第２章（婿選びの御触れ）1－6
10. 『ナラ王物語』第２章 7－13
11. 『ナラ王物語』第２章 14－20
12. 『ナラ王物語』第２章 21－28
13. 『ナラ王物語』第２章 29－30，第３章（ナラ王とダマヤンティーの対話）1－6
14. 『ナラ王物語』第３章 7－14
15. 『ナラ王物語』第３章 15－22

８．成績評価方法：

授業への出席状況と受講態度（40%），授業内容の理解度（40%）および予習（20%）

９．教科書および参考書：

C. R. Lanman: A Sanskrit Reader, W. D. Whitney: Sanskrit Grammar

１０．授業時間外学習：個々の語形を文法的に解析したうえ，指定された部分を訳しておくこと。毎回の授業の復習に充分に時間をかけること。

１１．実務・実践的授業/Practicalbusiness

※〇は、実務・実践的授業であることを示す。/Note:"〇"Indicatesthe practicalbusiness

《実務・実践的授業/Practicalbusiness》

１２．その他：なし

サンスクリット語初級の知識を有すること。冬セメスターのサンスクリット語（サンスクリット語基礎演習 II）と合せて受講するのが望ましい。

科目名：サンスクリット語／ Sanskrit

曜日・講時：後期 木曜日 ３講時

セメスター：4 **単位数：**2

担当教員：渡辺　亮

コード：LB44304,　**科目ナンバリング：**LHM-OFL203J,　**使用言語：**日本語

【平成 30 年度以前入学者読替先科目名：】

１．授業題目：サンスクリット語基礎演習 II

２．Course Title（授業題目）：Introduction to classical Sanskrit literature II

３．授業の目的と概要：前期に引き続き，ランマンの『サンスクリット読本』をテキストとして読解演習を行い，サンスクリット語の文法・語彙の理解を深める。テキストの語彙集・注記ばかりでなく，ホイットニーの文法書およびシュパイエルの統語法書を適宜参照しながら読み進める。

４．Course Objectives and Course Synopsis(授業の目的と概要)：In this class continued from Sanskrit (Introduction to classical Sanskrit literature I), we aims to deepen our understanding of Sanskrit grammar and vocabulary through reading texts in Lanman's "A Sanskrit Reader." We will read as much as possible by referring to Whitney's "Sanskrit Grammar" and Speijer's "Sanskrit Syntax" as well as the textbook's glossary and explanatory notes.

５．学習の到達目標：平易なサンスクリット語の文章を訳せるようになる。

６．Learning Goals(学修の到達目標)：Students will be able to translate plain Sanskrit texts.

７．授業の内容・方法と進度予定：

1. イントロダクション
2. 『ナラ王物語』第３章 23－25，第４章（ナラ王とダマヤンティーの対話）1－5
3. 『ナラ王物語』第４章 6－13
4. 『ナラ王物語』第４章 14－22
5. 『ナラ王物語』第４章 23－31
6. 『ナラ王物語』第５章（婿選びの式）1－9
7. 『ナラ王物語』第５章 10－18
8. 『ナラ王物語』第５章 19－27
9. 『ナラ王物語』第５章 28－36
10. 『ナラ王物語』第５章 37－46
11. 『有益な教え（ヒトーパデーシャ)』イントロダクション，プロローグ
12. 『有益な教え』プロローグ
13. 『有益な教え』プロローグ
14. 『有益な教え』「老いた虎と旅人」
15. 『有益な教え』「老いた虎と旅人」

８．成績評価方法：

授業への出席状況と受講態度（40%），授業内容の理解度（40%）および予習（20%）

９．教科書および参考書：

C. R. Lanman: A Sanskrit Reader, W. D. Whitney: Sanskrit Grammar, J. S. Speijer: Sanskrit Syntax

１０．授業時間外学習：個々の語形を文法的に解析したうえ，指定された部分を訳しておくこと。毎回の授業の復習に充分に時間をかけること。

１１．実務・実践的授業/Practicalbusiness

※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note:"○"Indicatesthe practicalbusiness

《実務・実践的授業/Practicalbusiness》

１２．その他：なし

サンスクリット語初級の知識を有すること。夏セメスターのサンスクリット語（サンスクリット語基礎演習 I）と合せて受講するのが望ましい。

科目名：中国語／ Chinese

曜日・講時：前期 水曜日 ２講時

セメスター：3 **単位数：**2

担当教員：張　佩茹

コード：LB33205,　**科目ナンバリング：**LHM-CHN201J,　**使用言語：**日本語

【平成 30 年度以前入学者読替先科目名：】

１．授業題目：中国語中級作文

２．Course Title（授業題目）：Intermediate Mandarin Chinese Writing

３．授業の目的と概要：初級クラスで学習した中国語の語彙と基礎文法をベースに、使える表現を増やし、中級レベルの作文力を身につけることを目的とする。基礎文型の復習をしながら、身近な話題で中国語の作文を書く練習をする。中国語らしい表現を体得し、中国語での発信力を磨く。

４．Course Objectives and Course Synopsis(授業の目的と概要)：This course is designed for those students who have already completed the learning at the beginner's level and acquired the basic knowledge of Mandarin Chinese pronunciation and grammar. The purpose of this course is to help students improve their writing ability to reach the intermediate level. Along with reviewing basic sentence patterns, students practice writing on familiar topics in Chinese. Through this process, students will become familiar with natural Mandarin Chinese expressions and be able to express themselves better in Mandarin Chinese.

５．学習の到達目標：身近な話題について、自分の考えを正確に中国語の文章で表現することができる。

６．Learning Goals(学修の到達目標)：Students will develop the ability to express their ideas accurately on familiar topics when they write in Mandarin Chinese.

７．授業の内容・方法と進度予定：

＜授業内容・方法＞テーマに沿って、作文練習をする。

＜進度予定＞

前期

第１回　ガイダンス、“奇异的影”について
第２回　“自立”について
第３回　“瞻瞻的梦”について
第４回　“听故事”について
第５回　“办公室”について
第６回　“种花”について
第７回　“你给我削瓜，我给你打扇”について
第８回　“小旅行”について
第９回　“小母亲”について
第１０回　“似爱之虐”について
第１１回　“弟弟睡了”について
第１２回　“水光”について
第１３回　“小树”について
第１４回　“夕阳”について
第１５回　期末まとめ

８．成績評価方法：

平常点：100％（主に課題）

９．教科書および参考書：

＜教科書＞プリント配布

＜参考書＞『やさしくくわしい中国語文法の基礎　改訂新版』、守屋 宏則ら著、東方書店、2019 年

１０．授業時間外学習：予習：テーマに関連する中国語の作文を読む。使ってみたい単語の用法を事前に調べておく。
復習：間違ったところを見直す。

１１．実務・実践的授業/Practicalbusiness

※〇は、実務・実践的授業であることを示す。/Note:"〇"Indicatesthe practicalbusiness

《実務・実践的授業/Practicalbusiness》

１２．その他：なし

科目名：中国語／ Chinese

曜日・講時：後期 水曜日　２講時

セメスター：4 **単位数：**2

担当教員：張　佩茹

コード：LB43207,　**科目ナンバリング：**LHM-CHN201J,　**使用言語：**日本語

【平成 30 年度以前入学者読替先科目名：】

１．授業題目：中国語中級作文

２．Course Title（授業題目）：Intermediate Mandarin Chinese Writing

３．授業の目的と概要：初級クラスで学習した中国語の語彙と基礎文法をベースに、使える表現を増やし、中級レベルの作文力を身につけることを目的とする。基礎文型の復習をしながら、身近な話題で中国語の作文を書く練習をする。中国語らしい表現を体得し、中国語での発信力を磨く。

４．Course Objectives and Course Synopsis(授業の目的と概要)：This course is designed for those students who have already completed the learning at the beginner's level and acquired the basic knowledge of Mandarin Chinese pronunciation and grammar. The purpose of this course is to help students improve their writing ability to reach the intermediate level. Along with reviewing basic sentence patterns, students practice writing on familiar topics in Chinese. Through this process, students will become familiar with natural Mandarin Chinese expressions and be able to express themselves better in Mandarin Chinese.

５．学習の到達目標：身近な話題について、自分の考えを正確に中国語の文章で表現することができる。

６．Learning Goals(学修の到達目標)：Students will develop the ability to express their ideas accurately on familiar topics when they write in Mandarin Chinese.

７．授業の内容・方法と進度予定：

＜授業内容・方法＞テーマに沿って、作文練習をする。

＜進度予定＞

第１回　ガイダンス、“儿童不知春，问草何处绿”について
第２回　“留春”について
第３回　“第三张笺”について
第４回　“穿了爸爸的衣服”について
第５回　“研究”について
第６回　“教育”について
第７回　“瓶里、盆里、地里的花”について
第８回　“爸爸不在家的时候”について
第９回　“拉黄包车”について
第１０回　“清明”について
第１１回　“似爱之虐”について
第１２回　“进步”について
第１３回　“战争的起源”について
第１４回　“买得一枝春”について
第１５回　期末まとめ

８．成績評価方法：

平常点：100％（主に課題）

９．教科書および参考書：

＜教科書＞プリント配布

＜参考書＞『やさしくくわしい中国語文法の基礎　改訂新版』、守屋 宏則ら著、東方書店、2019 年

１０．授業時間外学習：予習：テーマに関連する中国語の作文を読む。使ってみたい単語の用法を事前に調べておく。
復習：間違ったところを見直す。

１１．実務・実践的授業/Practicalbusiness

※〇は、実務・実践的授業であることを示す。/Note:"〇"Indicatesthe practicalbusiness

《実務・実践的授業/Practicalbusiness》

１２．その他：なし

科目名：朝鮮語／ Korean

曜日・講時：前期 水曜日 ２講時

セメスター：3 **単位数：**2

担当教員：権　来順

コード：LB33206,　**科目ナンバリング：**LHM-KOR201J,　**使用言語：**日本語

【平成 30 年度以前入学者読替先科目名：】

１．授業題目：韓国語入門
２．Course Title（授業題目）：Korean for Beginners
３．授業の目的と概要：韓国語（ハングル）に関する全体像を身につけ、韓国語の読み書きができることをめざす。
４．Course Objectives and Course Synopsis(授業の目的と概要)：To be familiar with the overall concept of Hangeul, with the aim of being able to read and write Hangeul characters.
５．学習の到達目標：学習の入り口としてハングル文字の仕組みを理解し、韓国語への興味を持たせることを目的とする。特に日本語にない発音に重点を置き、正確な韓国語の発音を練習する。韓国の文化、風習などの視聴覚資料を使い、基本文法と会話を学ぶ。
６．Learning Goals(学修の到達目標)：To understand the structure of Hangeul characters as an introduction to learning Korean, so as to draw interest in the Korean language. In particular, to focus on pronunciations not found in the Japanese language, and to practise accurate Korean pronuncia
７．授業の内容・方法と進度予定：
第 1 回：イントロダクション：授業の全般的説明、学修方法などについてガイダンスを行う
第 2 回：韓国語の基本母音と子音に関して、6 個の基本母音と 5 個の子音【平音】の組み合わせ
第 3 回：韓国語の基本母音と子音に関して、4 個の基本母音と 5 個の子音【平音】の組み合わせ
第 4 回：韓国語の基本母音と子音に関して、10 個の基本母音と 4 個の子音【激音】の組み合わせ
第 5 回：韓国語の基本母音と子音に関して、基本母音 10 個と 5 個の子音【濃音】の組み合わせ
第 6 回：１１個の複合母音の学習
第 7 回：一つ文字終声(パッチム)→連音化，流音化，有声音化の学習
第 8 回：二つ文字終声(パッチム)→激音化，濃音化，鼻音化の学習、日本語のハングル(韓国語)表記練習
第 9 回：助詞「～は」と「～です」の表現→「あなたはどこの国の人ですか」など、相手の国籍の尋ねや答え方、自己紹介
第 10 回：助詞「～は」を用いて「名詞＋です」、「名詞＋ですか」、「名詞＋ではない」の文型を練習
第 11 回：指示表現と所有表現の学習
第 12 回：助詞「～を」と動詞の丁寧表現、「～ます、～ています」の学習
第 13 回：助詞「～に、～も」を用いて位置名詞を学習場所や方向など、位置を表す表現を学び、道や場所を尋ねる練習をする
第 14 回：助詞「～で」、動詞の否定形を練習
第 15 回：総まとめと試験
８．成績評価方法：
期末筆記試験 30%、小テスト 20%、平常点(授業態度の積極性)50%によって評価する。
９．教科書および参考書：
鄭世桓、権来順、金永昊、呉正培、張基善　著『パルン韓国語』　朝日出版社、参考資料のプリント配布
１０．授業時間外学習：毎回の学習した内容を復習し次の授業に生かすために、新しい語彙や単語の単語帳を作ること。/Students to prepare a vocabulary book comprising new vocabulary and words, for reviewing and use in future classes the new vocabulary learnt.
１１．実務・実践的授業/Practicalbusiness
※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note:"○"Indicatesthe practicalbusiness
《実務・実践的授業/Practicalbusiness》
１２．その他：なし

科目名：朝鮮語／ Korean

曜日・講時：後期 水曜日 ２講時

セメスター：4 **単位数：**2

担当教員：権　来順

コード：LB43208,　**科目ナンバリング：**LHM-KOR201J,　**使用言語：**日本語

【平成 30 年度以前入学者読替先科目名：】

１．授業題目：初級韓国語
２．Course Title（授業題目）：Elementary Korean
３．授業の目的と概要：韓国語の読解力と簡単な生活会話をめざす。
４．Course Objectives and Course Synopsis(授業の目的と概要)：To be able to comprehend Korean text and carry out simple everyday conversation.
５．学習の到達目標：日常生活に必要な語彙や表現力を高め、コミュニケーション能力を養う。
６．Learning Goals(学修の到達目標)：To improve vocabulary and expressions necessary for everyday life, and to enhance communication skills.
７．授業の内容・方法と進度予定：
第１回：イントロダクション
第２回：現在形の用言活用１（規則活用）
第３回：現在形の用言活用Ⅱ（規則活用）
第４回：現在形の用言活用（変則活用）
第５回：固有語数詞、時間、買い物、値段などの表現
第６回：過去形の用言活用１（規則活用）
第７回：過去形の用言活用Ⅱ（規則活用）
第８回：過去形の用言活用（変則活用）
第９回：願望を表す表現
第 10 回：意志を表す表現
第 11 回：目的を表す表現
第 12 回：格式体体敬語表現
第 13 回：非格式体敬語表現
第 14 回：意向・意見・勧誘の表現
第 15 回：総まとめと試験
８．成績評価方法：
期末筆記試験 30%、小テスト 20%、平常点(授業態度の積極性)50%によって評価する。
９．教科書および参考書：
鄭世桓、権来順、金永昊、呉正培、張基善　著『パルン韓国語』　朝日出版社、参考資料のプリント配布
１０．授業時間外学習：毎回の学習した内容を復習し次の授業に生かすために、新しい語彙や単語の単語帳を作ること。/ Students to prepare a vocabulary book comprising new vocabulary and words, for reviewing and use in future classes the new vocabulary learnt.
１１．実務・実践的授業/Practicalbusiness
※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note:"○"Indicatesthe practicalbusiness
《実務・実践的授業/Practicalbusiness》
１２．その他：なし
基本文字の学習を終えて、ハングル(韓国語)文字が読めれば履修可能。

科目名：イタリア語／ Italian

曜日・講時：前期 水曜日 ４講時

セメスター：3 **単位数：**2

担当教員：ＭＡＲＩＮＵＣＣＩ　ＬＯＲＥＮＺ

コード：LB33405, **科目ナンバリング：**LHM-OFL204J, **使用言語：**日本語

【平成 30 年度以前入学者読替先科目名：】

１．授業題目：イタリア語　上級

２．Course Title（授業題目）：Advanced Italian

３．授業の目的と概要：文法の復習を一層広げながら、イタリア語の積極的な使い方、授業時間以外の私立的な使用を支配する方法や刺激を与えること。ますます複雑な会話や作文によって、自分の趣味、意見、研究的な興味もイタリア語で表現できるようになること。

４．Course Objectives and Course Synopsis(授業の目的と概要)：As the grammar and vocabulary of the students is further widened, the course will give them ways and stimuli to keep learning Italian outside of the classroom time. Through increasingly complex conversation and writing assignments, the students will become able to discuss about their hobbies, their ideas, and their academic interests.

５．学習の到達目標：学んできたイタリア語文法を駆使し、さらに高度な読解、翻訳、会話、聞き取りの能力を伸ばし、音楽と映画によってもイタリア文化に関しても学んでいく。

６．Learning Goals(学修の到達目標)：By fully using the grammatical competences acquired until now, the students will approach even more difficult texts, translations, conversation and listening exercises, while approaching Italian culture also through music and movies

７．授業の内容・方法と進度予定：

1. 復習テスト
2. 会話と読解の練習。
3. 小テストと直接法未来形。
4. 進行動詞と gerundio の使用
5. 会話と読解の練習。
6. 曲の聞き取り、歌詞分析
7. 翻訳の小テスト
8. passato remoto の過去形
9. 会話と読解の練習。
10. 動詞文法のまとめ
11. 作文・自分の趣味
12. イタリア語での映画
13. 映画でまとめた文法・単語。
14. 聞き取り練習とテストの準備。

８．成績評価方法：

クラスでの積極的な参加、学期末試験

９．教科書および参考書：

イタリア語の ABC[改訂版]《CD 付》　長神 悟、プリントアウト、音楽、映画

１０．授業時間外学習：無し

１１．実務・実践的授業/Practicalbusiness

※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note:"○"Indicatesthe practicalbusiness

《実務・実践的授業/Practicalbusiness》

１２．その他：なし

科目名：イタリア語／ Italian

曜日・講時：前期 木曜日 ３講時

セメスター：3 **単位数：**2

担当教員：ＭＡＲＩＮＵＣＣＩ　ＬＯＲＥＮＺ

コード：LB34305, **科目ナンバリング：**LHM-OFL204J, **使用言語：**日本語

【平成 30 年度以前入学者読替先科目名：】

１．授業題目：イタリア語　初級

２．Course Title (授業題目)：Italian (Beginner)

３．授業の目的と概要：日常的な表現と主題から、イタリア語の発音や基礎的な文法が紹介される。名詞の性や数、冠詞、動詞の文法（現在・過去)、代名詞をつかえるようになりながら、会話、団体ゲーム簡単な作文によって練習される。

４．Course Objectives and Course Synopsis(授業の目的と概要)：The course aims at offering a solid basis of the Italian language, beginning from its phonetics and fundamental grammar. As the students will become familiar with names, their number and gender, articles, verb grammar (present and past) and pronouns, the study will progress through conversation, games and the production of simple texts.

５．学習の到達目標：授業の目標は基礎的なイタリア語の適用である。日常的な会話に使えるような表現の会得して、簡単な読解も紹介される。

６．Learning Goals(学修の到達目標)：The aim of the course is the correct application of the basics of Italian language. We will focus on apprehending expressions used in everyday context, but beginner level reading comprehension will also be included.

７．授業の内容・方法と進度予定：

1. 授業紹介・挨拶から
3. 冠詞と名詞。
4. 形容詞の二種類
5. Essere
6. Avere
7. 規則動詞入門
8. 不規則動詞入門
9. 数字、時間、日付
10. 中間テスト
11. 過去入門
12. 副詞の種類
13. 疑問詞。
14. 小テストと復習。
15. 期末テストとまとめ。

８．成績評価方法：

クラスでの積極的な参加、学期末試験

９．教科書および参考書：

イタリア語の ABC[改訂版]《CD 付》　　長神 悟、プリントアウト

１０．授業時間外学習：無し

１１．実務・実践的授業/Practicalbusiness

※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note:"○"Indicatesthe practicalbusiness

《実務・実践的授業/Practicalbusiness》

１２．その他：なし

科目名：イタリア語／ Italian

曜日・講時：前期 木曜日 ４講時

セメスター：3 **単位数：**2

担当教員：ＭＡＲＩＮＵＣＣＩ　ＬＯＲＥＮＺ

コード：LB34402, **科目ナンバリング：**LHM-OFL204J, **使用言語：**日本語

【平成 30 年度以前入学者読替先科目名：】

１．授業題目：イタリア語中級

２．Course Title（授業題目）：Italian Intermediate

３．授業の目的と概要：今まで会得した文法と会話の基礎にさらに建てながら、新しい文法を紹介し、単語を広げる目的である。動詞の文法で進歩しながら、イタリア文化や現代について会話する、そして自分の趣味や大学専門に関する会話や作文させる。

４．Course Objectives and Course Synopsis(授業の目的と概要)：Building on the basis hitherto acquired, the course will introduce new grammar and widen the vocabulary of the students. We will progress with verbal grammar, discuss on basic topics relative to Italian culture and its news, and there will be spoken and written exercises relative to the student`s interests and field of study.

５．学習の到達目標：以前の基礎を強化し、自己表現の上に、イタリア語の勉強を自分の興味や趣味に繋がれる方法を提案する目的とする。

６．Learning Goals(学修の到達目標)：The course aims at strengthening the grammatical basis, and to offer to the students different ways of connecting the study of Italian to their interests, in order for them to begin expressing themselves.

７．授業の内容・方法と進度予定：

1. 紹介、復習テスト
2. 過去と将来 直接法近過去その一
3. 旅行の単語・方向と前置詞
4. Potere 不規則動詞の直接法現在形とその使い方。
5. Venire 不規則動詞の直接法現在形。
6. 自分の趣味・読解と作文
7. 小テストと gerundio
8. 非人称動詞。
9. Volere と Vorrei（条件法現在）
10. Potere と Sapere と riuscire
11. 近過去と半過去
12. 小テストと会話の練習。
13. 近過去と半過去２
14. 作文の練習。
15. 期末テストとまとめ。

８．成績評価方法：

クラスでの積極的な参加、学期末試験

９．教科書および参考書：

イタリア語の ABC[改訂版]《CD 付》　長神 悟、プリントアウト

１０．授業時間外学習：無し

１１．実務・実践的授業/Practicalbusiness

※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note:"○"Indicatesthe practicalbusiness

《実務・実践的授業/Practicalbusiness》

１２．その他：なし

科目名：イタリア語／ Italian

曜日・講時：後期 水曜日 ４講時

セメスター：4 **単位数：**2

担当教員：ＭＡＲＩＮＵＣＣＩ　ＬＯＲＥＮＺ

コード：LB43405, **科目ナンバリング：**LHM-OFL204J, **使用言語：**日本語

【平成 30 年度以前入学者読替先科目名：】

１．授業題目：イタリア語　上級

２．Course Title（授業題目）：Advanced Italian

３．授業の目的と概要：文法の復習を一層広げながら、イタリア語の積極的な使い方、授業時間以外の私立的な使用を支配する方法や刺激を与えること。ますます複雑な会話や作文によって、自分の趣味、意見、研究的な興味もイタリア語で表現できるようになること。

４．Course Objectives and Course Synopsis(授業の目的と概要)：As the grammar and vocabulary of the students is further widened, the course will give them ways and stimuli to keep learning Italian outside of the classroom time. Through increasingly complex conversation and writing assignments, the students will become able to discuss about their hobbies, their ideas, and their academic interests.

５．学習の到達目標：学んできたイタリア語文法を駆使し、さらに高度な読解、翻訳、会話、聞き取りの能力を伸ばし、音楽と映画によってもイタリア文化に関しても学んでいく。

６．Learning Goals(学修の到達目標)：By fully using the grammatical competences acquired until now, the students will approach even more difficult texts, translations, conversation and listening exercises, while approaching Italian culture also through music and movies

７．授業の内容・方法と進度予定：

1. 復習テスト
2. 会話と読解の練習。
3. 小テストと直接法未来形。
4. 進行動詞と gerundio の使用
5. 会話と読解の練習。
6. 曲の聞き取り、歌詞分析
7. 翻訳の小テスト
8. passato remoto の過去形
9. 会話と読解の練習。
10. 動詞文法のまとめ
11. 作文・自分の趣味
12. イタリア語での映画
13. 映画でまとめた文法・単語。
14. 聞き取り練習とテストの準備。

８．成績評価方法：

クラスでの積極的な参加、学期末試験

９．教科書および参考書：

イタリア語の ABC[改訂版]《CD 付》　長神 悟、プリントアウト、音楽、映画

１０．授業時間外学習：無し

１１．実務・実践的授業/Practicalbusiness

※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note:"○"Indicatesthe practicalbusiness

《実務・実践的授業/Practicalbusiness》

１２．その他：なし

科目名：イタリア語／ Italian

曜日・講時：後期 木曜日 ３講時

セメスター：4 **単位数：**2

担当教員：ＭＡＲＩＮＵＣＣＩ　ＬＯＲＥＮＺ

コード：LB44305, **科目ナンバリング：**LHM-OFL204J, **使用言語：**日本語

【平成 30 年度以前入学者読替先科目名：】

１．授業題目：イタリア語　初級

２．Course Title (授業題目)：Italian (Beginner)

３．授業の目的と概要：日常的な表現と主題から、イタリア語の発音や基礎的な文法が紹介される。名詞の性や数、冠詞、動詞の文法（現在・過去)、代名詞をつかえるようになりながら、会話、団体ゲーム簡単な作文によって練習される。

４．Course Objectives and Course Synopsis(授業の目的と概要)：The course aims at offering a solid basis of the Italian language, beginning from its phonetics and fundamental grammar. As the students will become familiar with names, their number and gender, articles, verb grammar (present and past) and pronouns, the study will progress through conversation, games and the production of simple texts.

５．学習の到達目標：授業の目標は基礎的なイタリア語の適用である。日常的な会話に使えるような表現の会得して、簡単な読解も紹介される。

６．Learning Goals(学修の到達目標)：The aim of the course is the correct application of the basics of Italian language. We will focus on apprehending expressions used in everyday context, but beginner level reading comprehension will also be included.

７．授業の内容・方法と進度予定：

1. 授業紹介・挨拶から
3. 冠詞と名詞。
4. 形容詞の二種類
5. Essere
6. Avere
7. 規則動詞入門
8. 不規則動詞入門
9. 数字、時間、日付
10. 中間テスト
11. 過去入門
12. 副詞の種類
13. 疑問詞。
14. 小テストと復習。
15. 期末テストとまとめ。

８．成績評価方法：

クラスでの積極的な参加、学期末試験

９．教科書および参考書：

イタリア語の ABC[改訂版]《CD 付》　　長神 悟、プリントアウト

１０．授業時間外学習：無し

１１．実務・実践的授業/Practicalbusiness

※〇は、実務・実践的授業であることを示す。/Note:"〇"Indicatesthe practicalbusiness

《実務・実践的授業/Practicalbusiness》

１２．その他：なし

科目名：イタリア語／ Italian

曜日・講時：後期 木曜日 ４講時

セメスター：4 **単位数：**2

担当教員：ＭＡＲＩＮＵＣＣＩ　ＬＯＲＥＮＺ

コード：LB44402,　**科目ナンバリング：**LHM-OFL204J,　**使用言語：**日本語

【平成 30 年度以前入学者読替先科目名：】

１．授業題目：イタリア語中級

２．Course Title（授業題目）：Italian Intermediate

３．授業の目的と概要：今まで会得した文法と会話の基礎にさらに建てながら、新しい文法を紹介し、単語を広げる目的である。動詞の文法で進歩しながら、イタリア文化や現代について会話する、そして自分の趣味や大学専門に関する会話や作文させる。

４．Course Objectives and Course Synopsis(授業の目的と概要)：Building on the basis hitherto acquired, the course will introduce new grammar and widen the vocabulary of the students. We will progress with verbal grammar, discuss on basic topics relative to Italian culture and its news, and there will be spoken and written exercises relative to the student`s interests and field of study.

５．学習の到達目標：以前の基礎を強化し、自己表現の上に、イタリア語の勉強を自分の興味や趣味に繋がれる方法を提案する目的とする。

６．Learning Goals(学修の到達目標)：The course aims at strengthening the grammatical basis, and to offer to the students different ways of connecting the study of Italian to their interests, in order for them to begin expressing themselves.

７．授業の内容・方法と進度予定：

1. 紹介、復習テスト
2. 過去と将来 直接法近過去その一
3. 旅行の単語・方向と前置詞
4. Potere 不規則動詞の直接法現在形とその使い方。
5. Venire 不規則動詞の直接法現在形。
6. 自分の趣味・読解と作文
7. 小テストと gerundio
8. 非人称動詞。
9. Volere と Vorrei（条件法現在）
10. Potere と Sapere と riuscire
11. 近過去と半過去
12. 小テストと会話の練習。
13. 近過去と半過去２
14. 作文の練習。
15. 期末テストとまとめ。

８．成績評価方法：

クラスでの積極的な参加、学期末試験

９．教科書および参考書：

イタリア語の ABC[改訂版]《CD 付》　　長神 悟、プリントアウト

１０．授業時間外学習：無し

１１．実務・実践的授業/Practicalbusiness

※〇は、実務・実践的授業であることを示す。/Note:"〇"Indicatesthe practicalbusiness

《実務・実践的授業/Practicalbusiness》

１２．その他：なし

科目名：専門中国語／ Italian

曜日・講時：前期 火曜日 ３講時

セメスター：3 **単位数：**2

担当教員：張　佩茹

コード：LB32305, **科目ナンバリング：**LHM-CHN202J, **使用言語：**日本語

【平成 30 年度以前入学者読替先科目名：】

１．授業題目：中級中国語読解
２．Course Title（授業題目）：Intermediate Mandarin Chinese Reading
３．授業の目的と概要：この授業では、日中の文化や習慣などの相違点についてのエッセイを精読し、現代中国語の読解力を鍛えるとともに、中国の社会や文化について知識を深める。
４．Course Objectives and Course Synopsis(授業の目的と概要)：In this course, students read essays about the differences in Japanese and Chinese cultures and customs. This course aims to enhance their reading comprehension in Mandarin Chinese as well as help them to learn more about the society and culture of China.
５．学習の到達目標：現代中国語のエッセイを正確に読み解き、日中の文化の違いについて具体例を取り上げながら説明できる。
６．Learning Goals(学修の到達目標)：Students will develop the ability to read essays written in modern Mandarin Chinese with accuracy, and they will be able to give concrete examples to explain the differences of Japanese and Chinese cultures.
７．授業の内容・方法と進度予定：
＜授業内容・方法＞受講生が事前に指定されたエッセイの発音や語彙などを調べ、内容を読んでおく。授業では内容理解度の確認をし、関連することについて話し合う。

＜進度予定＞
第１回　ガイダンス、应该怎么应答？
第２回　客套话
第３回　凉饭与热饭
第４回　饺子
第５回　凉拌西红柿
第６回　淘米
第７回　早点
第８回　鱼刺儿应该放在哪儿?
第９回　被窝
第１０回　四二一现象
第１１回　起名字的学问
第１２回　儿童票
第１３回　高考
第１４回　身份证
第１５回　期末試験
８．成績評価方法：
【成績評価方法】
課題: 60%
期末試験: 40%
９．教科書および参考書：
＜教科書＞『小点心―あっさり味の日中文化論―』陳淑梅著、2005 年、NHK 出版。
＜参考書＞『日本人が知りたい中国人の当たり前 ： 中国語リーディング』林松濤ら著、三修社、2016 年
１０．授業時間外学習：予習：辞書などで調べて、指定された箇所を読んでおく。あわせて音読の練習もする。
復習：確認問題で間違えた箇所を復習し、正確な理解を目指す。
１１．実務・実践的授業/Practicalbusiness
※〇は、実務・実践的授業であることを示す。/Note:"〇"Indicatesthe practicalbusiness
《実務・実践的授業/Practicalbusiness》
１２．その他：なし

科目名：専門中国語／ Advanced Chinese

曜日・講時：後期 火曜日 ３講時

セメスター：4 **単位数：**2

担当教員：張　佩茹

コード：LB42309,　**科目ナンバリング：**LHM-CHN202J,　**使用言語：**日本語

【平成 30 年度以前入学者読替先科目名：】

１．授業題目：中級中国語読解
２．Course Title（授業題目）：Intermediate Mandarin Chinese Reading
３．授業の目的と概要：この授業では、日中の文化や習慣などの相違点についてのエッセイを精読し、現代中国語の読解力を鍛えるとともに、中国の社会や文化について知識を深める。
４．Course Objectives and Course Synopsis(授業の目的と概要)：In this course, students read essays about the differences in Japanese and Chinese cultures and customs. This course aims to enhance their reading comprehension in Mandarin Chinese as well as help them to learn more about the society and culture of China.
５．学習の到達目標：現代中国語のエッセイを正確に読み解き、日中の文化の違いについて具体例を取り上げながら説明できる。
６．Learning Goals(学修の到達目標)：Students will develop the ability to read essays written in modern Mandarin Chinese with accuracy, and they will be able to give concrete examples to explain the differences of Japanese and Chinese cultures.
７．授業の内容・方法と進度予定：
＜授業内容・方法＞受講生が事前に指定されたエッセイの発音や語彙などを調べ、内容を読んでおく。授業では内容理解度の確認をし、関連することについて話し合う。

＜進度予定＞
第１回　ガイダンス、打招呼
第２回　老朋友
第３回　对姓名的钟爱
第４回　礼物的奥秘
第５回　“这是特意为你买的！”
第６回　“你不饿吗？”
第７回　“辛苦了”
第８回　脱大衣的礼节
第９回　忌讳
第１０回　白纸黑字
第１１回　对钩儿“✓”
第１２回　东南西北
第１３回　怎么区别
第１４回　「いただきます」应该怎么说？
第１５回　期末試験
８．成績評価方法：
【成績評価方法】
課題: 60%
期末試験: 40%
９．教科書および参考書：
＜教科書＞『小点心―あっさり味の日中文化論―』陳淑梅著、2005 年、NHK 出版。
＜参考書＞『日本人が知りたい中国人の当たり前 ： 中国語リーディング』林松濤ら著、三修社、2016 年
１０．授業時間外学習：予習：辞書などで調べて、指定された箇所を読んでおく。あわせて音読の練習もする。
復習：確認問題で間違えた箇所を復習し、正確な理解を目指す。
１１．実務・実践的授業/Practicalbusiness
※〇は、実務・実践的授業であることを示す。/Note:"〇"Indicatesthe practicalbusiness
《実務・実践的授業/Practicalbusiness》
１２．その他：なし

科目名：専門ドイツ語／ Advanced Germany

曜日・講時：後期 水曜日 ４講時

セメスター：4 **単位数：**2

担当教員：松崎　裕人

コード：LB43406, **科目ナンバリング：**LHM-GER201J, **使用言語：**日本語

【平成 30 年度以前入学者読替先科目名：】

１．授業題目：ドイツ語読解力の養成とドイツ語基礎の徹底
２．Course Title（授業題目）：Deutsch besser lesen und verstehen
３．授業の目的と概要：ドイツ語散文を読みながら、ドイツ語文読解力の養成をはかる。
併せて、ドイツ語辞典や補助教材の使用法に習熟する。
その作業を通して、ドイツ語基礎を確かなものとする。
４．Course Objectives and Course Synopsis(授業の目的と概要)：Lesen der erzählerischen Schriften.
Verwendung der wichtigen Materialien.
Ganz Erlernen elementaren Deutsches.
５．学習の到達目標：中級ドイツ語の文献を読解することができる。
独和辞典や学習独独事典・特殊事典を効果的に使うことができる。
６．Learning Goals(学修の到達目標)：Sie können Mitteldeutsch gut verstehen.
Sie können verschiedene Lexika und Materialien richtig benutzen.
７．授業の内容・方法と進度予定：
1　ガイダンス
2　講読（1）
3　講読（2）およびビューヒャークンデについて
4　講読（3）
5　講読（4）
6　講読（5）および独独辞典の活用
7　講読（6）
8　講読（7）とまとめ（1）
9　講読（8）
10　講読（9）および事典の活用
11　講読（10）
12　講読（11）
13　講読（12）およびランデスクンデについて
14　講読（13）
15　講読（14）とまとめ（2）
８．成績評価方法：
小テスト（不規則動詞の単語テスト）12 回（50%）、授業での発表（50%）
９．教科書および参考書：
テクスト：
Stefan Zweig: Die Monotonisierung der Welt. (1925)
Stefan Zweig: Schachnovelle. (2013 Neuausgabe)［抜粋］
（いずれもプリント配布）
その他のテクストや参考文献については適宜紹介します。
１０．授業時間外学習：毎回、テクスト１頁ほどの十分な準備が必要です。その段階で不明な箇所を洗い出し、それを授業時に確認し、復習によって確かなものとしてください。
１１．実務・実践的授業/Practicalbusiness
※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note:"○"Indicatesthe practicalbusiness
《実務・実践的授業/Practicalbusiness》
１２．その他：なし
授業は原則的に対面で行いますが、オンラインに切り替える場合は事前に告知します。
学習支援ツールには Google Classroom を利用します。
連絡先：hiroto.matsuzaki.c4◎tohoku.ac.jp
（◎を@に換えてください。）

科目名：専門フランス語／ Advanced French

曜日・講時：前期 月曜日 ４講時

セメスター：3 **単位数：**2

担当教員：黒岩　卓

コード：LB31403,　**科目ナンバリング：**LHM-FRE201J,　**使用言語：**日本語

【平成 30 年度以前入学者読替先科目名：】

１．授業題目：時事フランス語
２．Course Title（授業題目）：Current French
３．授業の目的と概要：初級文法を修了した学習者を主な対象として、幅広い内容を扱ったフランス語を読む。
４．Course Objectives and Course Synopsis(授業の目的と概要)：Read French texts about various contemporary issues.
５．学習の到達目標：各学習者が自分の興味に応じて、さまざまなフランス語を自律的に読めるようになる。
６．Learning Goals(学修の到達目標)：Each learner can read various French texts according to his/her interests.
７．授業の内容・方法と進度予定：
（下に記した教科書をベースとします。学習者のレベルに応じて他の文章も用いることがあります。また各回に扱う課については、進度に応じて適時調整します。）

第１回　オリエンテーション
第２回　１課
第３回　２課
第４回　３課
第５回　４課
第６回　５課
第７回　６課
第８回　７課
第９回　８課
第１０回　９課
第１１回　１０課
第１２回　１１課
第１３回　１２課
第１４回　１３課
第１５回　１４課

８．成績評価方法：
出席点（100％）
９．教科書および参考書：
石井洋二郎、野崎夏生、ジョルジュ・ヴェスィエール『時事フランス語　2024 年度版』、朝日出版社、2024.
１０．授業時間外学習：出席の際の訳読も評価の対象となりますので、毎回の綿密な予習が必須となります。
１１．実務・実践的授業/Practicalbusiness
※〇は、実務・実践的授業であることを示す。/Note:"〇"Indicatesthe practicalbusiness
《実務・実践的授業/Practicalbusiness》
１２．その他：なし

科目名：専門フランス語／ Advanced French

曜日・講時：後期 水曜日 ４講時

セメスター：4 **単位数：**2

担当教員：ＭＥＶＥＬ　ＹＡＮＮ　ＥＲＩＣ

コード：LB43407,　**科目ナンバリング：**LHM-FRE201J,　**使用言語：**日本語

【平成 30 年度以前入学者読替先科目名：】

１．授業題目：French oral and written expression
２．Course Title（授業題目）：French oral and written expression
３．授業の目的と概要：The course will take several forms：
- reading of various types of texts
- listening to audio documents (dialogues , songs ...)
- analysis of visual documents
- discussions on social issues
- role - playing

４．Course Objectives and Course Synopsis(授業の目的と概要)：The course will take several forms：
- reading of various types of texts
- listening to audio documents (dialogues , songs ...)
- analysis of visual documents
- discussions on social issues
- role playing

５．学習の到達目標：In both oral and written form , the course will enable you to
- enrich vocabulary and consolidate syntax
- enhance argumentation skills
- improve comprehension skills

The course will also help you to discover everyday life in France , its codes and cu

６．Learning Goals(学修の到達目標)：In both oral and written form , the course will enable you to
- enrich vocabulary and consolidate syntax
- enhance argumentation skills
- improve comprehension skills

The course will also help you to discover everyday life in France , its codes and cu

７．授業の内容・方法と進度予定：
1) Oral and written expression
2) Oral and written expression
3) Oral and written expression
4) Oral and written expression
5) Oral and written expression
6) Oral and written expression
7) Oral and written expression
8) Oral and written expression
9) Oral and written expression
10) Oral and written expression
11) Oral and written expression
12) Oral and written expression
13) Oral and written expression
14) Oral and written expression
15) Oral and written expression
16) Film screening . Analysis and discussion .

８．成績評価方法：
Attendance at all classes is required . Oral participation counts for 50 % . The evaluation will also be written (several short texts) .

９．教科書および参考書：
The textbook will be chosen according to the students' level .

１０．授業時間外学習：Exercices will be used to review vocabulary and grammar points . Students will also be asked to write short texts related to the subject of the course .

１１．実務・実践的授業/Practicalbusiness
※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note:"○"Indicatesthe practicalbusiness
《実務・実践的授業/Practicalbusiness》

１２．その他：なし

科目名：漢文講読／ Chinese Classics (Reading)

曜日・講時：前期 金曜日 ３講時

セメスター：3 **単位数：**2

担当教員：高橋　亨

コード：LB35306, **科目ナンバリング：**LHM-LIT226J, **使用言語：**日本語

【平成 30 年度以前入学者読替先科目名：】

１．授業題目：漢文訓読入門（文法編）

２．Course Title（授業題目）：An introduction to reading classical Chinese texts in ancient Japanese.

３．授業の目的と概要：この講義の目的は、漢文の文型・句形について理解を深め、訓読処理を行う際に必要となる知識を習得することである。

４．Course Objectives and Course Synopsis(授業の目的と概要)：In this course,students will understand classical Chinese grammar,and learn about skills to read ancient Chinese texts in ancient Japanese.

５．学習の到達目標：この講義の目標は、教育や専門的研究の場で必要となる漢文の読解力と語彙力を身につけることにある。

６．Learning Goals(学修の到達目標)：Students will develop reading skills and build a vocabulary crucial to understanding ancient Chinese texts usede in the field of education and academic research.

７．授業の内容・方法と進度予定：

［内容・方法］講義の前半で個別の文法事項について解説し、後半で出席者とともにテキストに基づき訓読文と現代日本語訳の作成について検討する。

［進度予定］

第 01 講　訓点と文型
第 02 講　再読文字
第 03 講　使役形
第 04 講　受身形
第 05 講　否定形（１）
第 06 講　否定形（２）
第 07 講　否定形（３）
第 08 講　疑問形・反語形（１）
第 09 講　疑問形・反語形（２）
第 10 講　疑問形・反語形（３）
第 11 講　比較形
第 12 講　限定形・累加形
第 13 講　抑揚形
第 14 講　仮定形
第 15 講　期末試験

８．成績評価方法：

出席状況（50%）と期末試験の成績（50%）によって総合的に評価する。

９．教科書および参考書：

教材は各回において適宜配布する。
Texts are handed out at every class.

１０．授業時間外学習：講義時間は限られているため、自主学習が重要になる。それゆえ、予習・復習をしっかり行うことを求める。
The session time is limited and therefore self-directed learning is important. Students are required to prepare and review for each class.

１１．実務・実践的授業/Practicalbusiness

※〇は、実務・実践的授業であることを示す。/Note:"〇"Indicatesthe practicalbusiness

《実務・実践的授業/Practicalbusiness》

１２．その他：なし

オフィスアワーは中国思想中国哲学研究室（617）で毎週金曜日 12：15～12：45 とする。
Office hours are from 12:15 to 12:45 on every Friday at the Laboratory of Chinese philosophy, Room617.

科目名：漢文講読／ Chinese Classics (Reading)

曜日・講時：後期 金曜日 ３講時

セメスター：4 **単位数：**2

担当教員：高橋　亨

コード：LB45307, **科目ナンバリング：**LHM-LIT226J, **使用言語：**日本語

【平成 30 年度以前入学者読替先科目名：】

１．授業題目：漢文訓読入門（故事成語編）

２．Course Title（授業題目）：An introduction to reading classical Chinese texts in ancient Japanese.

３．授業の目的と概要：この講義の目的は、故事成語の出典となった史書の読解と理解を通して、漢文に対する読解力のさらなる向上させることである。

４．Course Objectives and Course Synopsis(授業の目的と概要)：In this course,students will learn about ancient Chinese grammar through reading the history book that became the source of the idiom.

５．学習の到達目標：この講義の目標は、教育や専門的研究の場で必要となる漢文の読解力と語彙力を身につけることにある。

６．Learning Goals(学修の到達目標)：Students will develop reading skills and build a vocabulary crucial to understanding ancient Chinese texts usede in the field of education and academic research.

７．授業の内容・方法と進度予定：

［内容・方法］

出席者とともに故事成語の出典となった史書を読み、その訓読文と現代日本語訳の作成について検討する。

［進度予定］

第 01 講　故事成語（１）
第 02 講　故事成語（２）
第 03 講　故事成語（３）
第 04 講　故事成語（４）
第 05 講　故事成語（５）
第 06 講　故事成語（６）
第 07 講　故事成語（７）
第 08 講　故事成語（８）
第 09 講　故事成語（９）
第 10 講　故事成語（10）
第 11 講　故事成語（11）
第 12 講　故事成語（12）
第 13 講　故事成語（13）
第 14 講　故事成語（14）
第 15 講　期末試験

８．成績評価方法：

出席状況（50%）と期末試験の成績（50%）によって総合的に評価する。

９．教科書および参考書：

教材は各回において適宜配布する。
Texts are handed out at every class.

１０．授業時間外学習：講義時間は限られているため、自主学習が重要になる。それゆえ、予習・復習をしっかり行うことを求める。
The session time is limited and therefore self-directed learning is important. Students are required to prepare and review for each class.

１１．実務・実践的授業/Practicalbusiness

※〇は、実務・実践的授業であることを示す。/Note:"〇"Indicatesthe practicalbusiness

《実務・実践的授業/Practicalbusiness》

１２．その他：なし

オフィスアワーは中国思想中国哲学研究室（617）で毎週金曜日 12：15～12：45 とする。
Office hours are from 12:15 to 12:45 on every Friday at the Laboratory of Chinese philosophy, Room617.

科目名：人文社会科学特別講義Ⅰ／ Humanities and Social Sciences(Special Lecture)Ⅰ

曜日・講時：

セメスター： 単位数：1

担当教員：ＫＬＡＵＴＡＵ　ＯＲＩＯＮ

コード：LB98833,　**科目ナンバリング：**LHM-OHU203E,　**使用言語：**英語

【平成 30 年度以前入学者読替先科目名：】

１．授業題目：文化理論入門

２．Course Title（授業題目）：Introduction to Cultural Theory

３．授業の目的と概要：この授業は、Dr. Lisa Zhang（国際文化研究科・JSPS 外国人特別研究員)を講師に招き、英語による講義を提供する。日本学国際共同大学院(GPJS)との共催科目であり、カルチュラルスタディーズの諸問題に留まらず、文化理解の方法論についても論じられる。

４．Course Objectives and Course Synopsis(授業の目的と概要)：Course Description by Dr. Lisa Zhang (Graduate School of International Clultural Studies, JSPS Fellow):

This course serves as an introduction to cultural theory. Throughout the course, students will critically explore various aspects of culture, including the political dimensions of mass culture, the evolving conditions of art in an era marked by greater access to artistic production, and the workings of ideology. Fundamental concepts within the field, such as power relations, class structures, gender roles, and racial dynamics, will also be examined.

Central to this course is the recognition of the inseparability between theory and empirical observation. As such, students will practice how theory can be used to better understand cultural phenomena. Examples may include the changing media landscape engendered by online platforms like YouTube, the widespread appeal of characters such as Gudetama, and controversies like the one involving J.K. Rowling's views on transgender issues.

５．学習の到達目標：Upon completion of the course, students are expected to have achieved the following:

1) Know the basics of Cultural Theory
2) Have a firm grasp of some of the important concepts within Cultural Theory
3) Be able to use appropriate theories and con

６．Learning Goals(学修の到達目標)：Upon completion of the course, students are expected to have achieved the following:

1) Know the basics of Cultural Theory
2) Have a firm grasp of some of the important concepts within Cultural Theory
3) Be able to use appropriate theories and con

７．授業の内容・方法と進度予定：

The course is structured around eight sessions.

Each session will involve two activities:

1) Lecture and close reading of the assigned text(s) for the session
2) Presentation and discussion of reflection papers and cultural phenomenon

Session 1: Culture and Cultures
Session 2: Decoding and Encoding Culture
Session 3: The Culture Industry
Session 4: The Democratization of Art
Session 5: The Workings of Ideology
Session 6: Truth and Politics
Session 7: Intersectionality, Race, and Sex
Session 8: The Vocabulary of Gender

８．成績評価方法：

Students are expected to prepare for and actively participate during each session. All materials will be provided by the teacher before the first class. To complete the course, students must write 3 reflection papers over the span of the course (with each

９．教科書および参考書：

Texts include:

1) Raymond Williams, “Culture,” in Keywords: A Vocabulary of Culture and Society. London: Croom Helm, 1976.
2) Stuart Hall, “Encoding and Decoding in the television discourse,” in CCCS Selected Working Papers, ed. Ann Gray et al, Abingd

１０．授業時間外学習：Expected individual study is 45 minutes per lecture hour. Students are expected to read 1 (or

2 short) articles or chapters before each session.

１１．実務・実践的授業/Practicalbusiness

※〇は、実務・実践的授業であることを示す。/Note:"〇"Indicatesthe practicalbusiness

《実務・実践的授業/Practicalbusiness》

１２．その他：なし

This course is taught in English